

ボランティア実践I				単位数	2単位
授業コード	10265	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習／3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することのない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1／2／3／4／5	
2	レポート 20%			1／2／3／4／5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. はじめてのボランティア					
事前学修	ボランティアを実践するうえで、自身の関心領域や実践に向けた思い等を整理し、説明できるよう準備する。				約120分
事後学修	ボランティア活動を実践するために、関心領域や活動可能な日程、エリア等を整理し、実現可能性を考察する。				約120分
2. 国際支援活動とボランティア					
事前学修	ボランティアやNPO、NGOなどで国際支援活動を行っている団体等をホームページ等で情報収集する。				約120分
事後学修	学修した国際支援活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。				約120分
3. ボランティア活動を始めるために					
事前学修	身近なボランティア活動について情報収集し、ボランティア活動を始めるために必要な準備等について考え整理する。				約120分
事後学修	ボランティア活動のために必要な情報を整理し、活動を始める準備をする。				約120分
4. 赤十字活動とボランティア					
事前学修	赤十字活動の歴史や活動について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。				約120分
事後学修	学修した赤十字活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。				約120分
5. 公民館活動とボランティア					
事前学修	公民館活動の歴史や活動について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。				約120分
事後学修	学修した公民館や社会教育活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。				約120分
6. 子育て支援活動とボランティア					
事前学修	身近な地域で行われている子育て支援活動等について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。				約120分
事後学修	学修した子育て支援活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。				約120分

7. ボランティア・NP0活動の支援窓口		
事前学修	ボランティア・NP0活動の支援窓口である、市町村のボランティアセンターや岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」の活動をホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。	約120分
事後学修	ボランティアやNP0活動の支援窓口について、学修した内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
8. ハンセン病の歴史とボランティア		
事前学修	ハンセン病の歴史や支援活動等について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。	約120分
事後学修	ハンセン病の歴史や支援活動等について、学修した内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
9. 生活困窮者支援とボランティア活動		
事前学修	生活困窮や貧困の現状と支援制度（生活困窮者自立支援制度や生活保護制度、就学支援制度等）について調べ、整理しまとめる。	約120分
事後学修	ボランティアが行う生活困窮者への支援活動（子ども食堂や学習支援、フードバンクなど）の実践活動について、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
10. ボランティア実践体験①		
事前学修	これまでの学修を基に、自ら活動先を調整し、活動に結び付ける。 体験活動のうち1度は、岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」へ出向き、見学や体験を行い、必要に応じて活動紹介等を受ける。	約120分
事後学修	岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」での見学や体験を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。 ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
11. ボランティア実践体験②		
事前学修	ボランティア活動に求められる4つの原則（自発性・主体性、社会性・連帯性、無償性・無給性、創造性・開拓性・先駆性）や活動のポイント（無理をしない、約束やルールを守る、秘密を守る）等について再確認し、スムーズに活動できるよう準備する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
12. ボランティア実践体験③		
事前学修	ボランティア活動を振り返り、活動を継続するために必要な準備等について考察する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
13. ボランティア実践体験④		
事前学修	ボランティア活動を継続して行うために必要な準備等について考察する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめ、発表の準備をする。	約120分
14. ボランティア実践の振り返り		
事前学修		約120分
事後学修		約120分
15. ボランティア実践のまとめ・発表		
事前学修	実践したボランティアを発表するための資料を作成する。	約120分
事後学修	発表した内容を振り返り、今後の活動に向けて課題を明確にする。	約120分
試験等		
課題レポートの提出		
試験のフィードバックの方法		
授業の最終日に実践をまとめて発表する		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		

ボランティア実践A				単位数	2単位
授業コード	10270	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	中井 俊雄				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習／3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
自分たちの身の回りで行われている多様なボランティア活動は、社会の様々な課題を背景として行われています。この授業では、ボランティア活動の概念・歴史・社会的意義、活動する上で気を付けなければならない原則やルールなど基礎的な知識を学びます。さらに、体験学習やその後の振り返り等を通して、自らの考え・価値観を言語化し、ボランティア活動への理解を深めます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	災害被災者やハンセン病元患者、生活困窮の状況にある方々のおかれている状況など、普段あまり接することがない情報や場面に接することで視野を広げ、他者への的確な理解と配慮に基づいた判断と対応ができる力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	初対面の当事者や関係者の方々に共感的態度で接し積極的に学ぶことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会的背景や歴史的問題について考えを述べるができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	様々な社会ニーズに対して自分なりの改善策を述べるができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	ボランティア活動の原則やルールを理解し、体験活動を通じてボランティア活動の意義や目的を言語化することができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義及び体験学習への参加態度 80%			1／2／3／4／5	
2	レポート 20%			1／2／3／4／5	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
社会福祉協議会で地域福祉活動を実践した27年間のうち、ボランティアセンター、権利擁護センター、生活困窮支援センター等での経験を活かし、ボランティアの基礎的な知識と当事者の理解、必要な価値観等を醸成し、ボランティア活動の今日的意義について理解を深める。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. はじめてのボランティア					
事前学修	ボランティアを実践するうえで、自身の関心領域や実践に向けた思い等を整理し、説明できるよう準備する。			約120分	
事後学修	ボランティア活動を実践するために、関心領域や活動可能な日程、エリア等を整理し、実現可能性を考察する。			約120分	
2. 国際支援活動とボランティア					
事前学修	ボランティアやNPO、NGOなどで国際支援活動を行っている団体等をホームページ等で情報収集する。			約120分	
事後学修	学修した国際支援活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。			約120分	
3. ボランティア活動を始めるために					
事前学修	身近なボランティア活動について情報収集し、ボランティア活動を始めるために必要な準備等について考え整理する。			約120分	
事後学修	ボランティア活動のために必要な情報を整理し、活動を始める準備をする。			約120分	
4. 赤十字活動とボランティア					
事前学修	赤十字活動の歴史や活動について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。			約120分	
事後学修	学修した赤十字活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。			約120分	
5. 公民館活動とボランティア					
事前学修	公民館活動の歴史や活動について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。			約120分	
事後学修	学修した公民館や社会教育活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。			約120分	
6. 子育て支援活動とボランティア					
事前学修	身近な地域で行われている子育て支援活動等について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。			約120分	
事後学修	学修した子育て支援活動の内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。			約120分	

7. ボランティア・NP0活動の支援窓口		
事前学修	ボランティア・NP0活動の支援窓口である、市町村のボランティアセンターや岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」の活動をホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。	約120分
事後学修	ボランティアやNP0活動の支援窓口について、学修した内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
8. ハンセン病の歴史とボランティア		
事前学修	ハンセン病の歴史や支援活動等について、ホームページ等で調べ、質問できるよう準備する。	約120分
事後学修	ハンセン病の歴史や支援活動等について、学修した内容を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
9. 生活困窮者支援とボランティア活動		
事前学修	生活困窮や貧困の現状と支援制度（生活困窮者自立支援制度や生活保護制度、就学支援制度等）について調べ、整理しまとめる。	約120分
事後学修	ボランティアが行う生活困窮者への支援活動（子ども食堂や学習支援、フードバンクなど）の実践活動について、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
10. ボランティア実践体験①		
事前学修	これまでの学修を基に、自ら活動先を調整し、活動に結び付ける。 体験活動のうち1度は、岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」へ出向き、見学や体験を行い、必要に応じて活動紹介等を受ける。	約120分
事後学修	岡山県ボランティア・NP0活動支援センター「ゆうあいセンター」での見学や体験を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。 ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
11. ボランティア実践体験②		
事前学修	ボランティア活動に求められる4つの原則（自発性・主体性、社会性・連帯性、無償性・無給性、創造性・開拓性・先駆性）や活動のポイント（無理をしない、約束やルールを守る、秘密を守る）等について再確認し、スムーズに活動できるよう準備する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
12. ボランティア実践体験③		
事前学修	ボランティア活動を振り返り、活動を継続するために必要な準備等について考察する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめる。	約120分
13. ボランティア実践体験④		
事前学修	ボランティア活動を継続して行うために必要な準備等について考察する。	約120分
事後学修	ボランティアの実践活動を振り返り、自分の考えや感想を整理しまとめ、発表の準備をする。	約120分
14. ボランティア実践の振り返り		
事前学修		約120分
事後学修		約120分
15. ボランティア実践のまとめ・発表		
事前学修	実践したボランティアを発表するための資料を作成する。	約120分
事後学修	発表した内容を振り返り、今後の活動に向けて課題を明確にする。	約120分
試験等		
課題レポートの提出		
試験のフィードバックの方法		
授業の最終日に実践をまとめて発表する		

日本語表現Ⅰ				単位数		2単位	
授業コード	12145	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期		
担当者氏名	村中 李衣						
時間割備考							
授業形態（主）	1 講義						
授業形態（副）							
担当形態	単独						
研究分野（大学院）							
本授業の概要							
日頃何気なく用いているひとつひとつの「日本語」に着目し、その語源や基本的運用法を確認したうえで、日本語初心者や外国人学習者にも理解できるような「日本語キャラクター図鑑」を受講生全員で作成する。 日本語ジャンルとして、「挨拶の日本語」「心を伝える日本語」「語りの日本語」「季節を伝える日本語」の4部門を設定し、その4部門の中から扱う語彙を選ぶ。 最終的には、作成した「日本語キャラクター図鑑」の効果検証を、オンラインで子どもたちと交流しながら行い、日本語の美しさや魅力について再確認する。							
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）			
1	日本語の語源や発展の歴史を正しく理解できる			知識・技能／思考・判断・表現力			
2	しなやかな表現で日本語の特質を伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性			
3	日本語学習初心者を意識してわかりやすく解説できるようなテキストの作成方法を工夫できる。			知識・技能			
4							
5							
成績評価の基準				対応する到達目標の番号			
1	日本語の基本的理解と表現力向上のためのワークシート達成度 50%			1／2／3／4			
2	「日本語図鑑」作成のためのグループディスカッションにおける貢献度 50%			1／2／3／4			
3							
4							
5							
実務経験のある教員による授業科目		実務あり					
実務経験の授業への活用方法							
児童文学作家として『ふしぎのくにの日本語』（教育出版）や『なんかへんだを手紙で伝える』（玉川大学出版局）等を作成し、現場で日本語についてのワークショップを全国で実施してきている。この経験を活かし、個々の学習者に適した日本語表現を指導し、ワークショップも展開する。							
日本語以外の言語による授業							
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間					
1、日本語を改めて意識する							
事前学修	テキストを事前に読み、日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する					2時間	
事後学修	授業内で課せられた日本語課題について、自分なりの振り返りと提案をまとめ、復習とする					2時間	
2、時を超えて日本語はどう変化してきたか							
事前学修	日本語の変化について自分なりに考えをまとめておく					2時間	
事後学修	自分の考えがどう深まったかをまとめmanaに提出					2時間	
3、「挨拶の日本語」を見つめ直す							
事前学修	あいさつの日本語の特徴を考えてくる					2時間	
事後学修	あいさつの日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する					2時間	
4、「挨拶の日本語」データ収集とディスカッション							
事前学修	自分なりのデータを収集しておく					2時間	
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってmanaに回答する					2時間	
5、「心を伝える日本語」を見つめ直す							
事前学修	心を伝える日本語を自分なりに収集しておく					2時間	
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってmanaに回答する					2時間	

6、「心を伝える日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	テキスト該当部分を熟読して自分なりの考えをまとめておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
7、「語りの日本語」を見つめ直す		
事前学修	日常的に使われている日本語の語りことばを整理し直し、その語源や類似語について自身で調べておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
8、「語りの日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	語りの日本語について、テキストを熟読しておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
9、「季節を伝える日本語」を見つめ直す		
事前学修	「季節を伝える日本語」についてテキストを熟読しておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
10、「季節を伝える日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	自分なりに関係資料を読み込んでおく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
11、「日本語のキャラクター図鑑」作成計画		
事前学修	図鑑作成にあたってのイメージを自分なりに作っておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
12、作成経過の確認と批評		
事前学修	自分の成果の発表ができるように準備する	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
13、「日本語キャラクター図鑑」完成に向けた修正作業		
事前学修	修正作業のための準備を進める	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
14、「キャラクター図鑑」の公表・交流		
事前学修	発表準備をする	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
15、交流成果の確認：日本語遣いの達人になるために必要なこと		
事前学修	プレゼンできるように準備する	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間

試験等
授業回4, 6, 8, 10において, 授業終了後、各自が作成したワークシートを提出する。 授業回15終了後に、最終レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後のワークシートについてはアドバイスも含めて後日返却。 最終レポート講評はマナバにおいて実施する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本文化キャラクター図鑑「日本語」ことばは時をこえる！ 村中李衣文 おくやまひでとし絵 玉川大学出版部 ISBN:978-4-472-05946-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受ける
連絡先
murataka@m.ndsu.ac.jp(村中)
留意事項
これまで意識されていなかった「日本語」の魅力を、自身の表現力を用いながら豊かに見つけていきましょう。 書くことや読むことが苦手でも、まったく大丈夫です。

日本語表現A			単位数	2単位	
授業コード	12147	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	村中 李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
日頃何気なく用いているひとつひとつの「日本語」に着目し、その語源や基本的運用法を確認したうえで、日本語初心者や外国人学習者にも理解できるような「日本語キャラクター図鑑」を受講生全員で作成する。 日本語ジャンルとして、「挨拶の日本語」「心を伝える日本語」「語りの日本語」「季節を伝える日本語」の4部門を設定し、その4部門の中から扱う語彙を選ぶ。 最終的には、作成した「日本語キャラクター図鑑」の効果検証を、オンラインで子どもたちと交流しながら行い、日本語の美しさや魅力について再確認する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	日本語の語源や発展の歴史を正しく理解できる			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	しなやかな表現で日本語の特質を伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	日本語学習初心者を意識してわかりやすく解説できるようなテキストの作成方法を工夫できる。			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準			対応する到達目標の番号		
1	日本語の基本的理解と表現力向上のためのワークシート達成度 50%			1／2／3／4	
2	「日本語図鑑」作成のためのグループディスカッションにおける貢献度 50%			1／2／3／4	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
児童文学作家として『ふしぎのくにの日本語』（教育出版）や『なんかへんだを手紙で伝える』（玉川大学出版局）等を作成し、現場で日本語についてのワークショップを全国で実施してきている。この経験を活かし、個々の学習者に適した日本語表現を指導し、ワークショップも展開する。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1、日本語を改めて意識する					
事前学修	テキストを事前に読み、日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する				2時間
事後学修	授業内で課せられた日本語課題について、自分なりの振り返りと提案をまとめ、復習とする				2時間
2、時を超えて日本語はどう変化してきたか					
事前学修	日本語の変化について自分なりに考えをまとめておく				2時間
事後学修	自分の考えがどう深まったかをまとめマナバに提出				2時間
3、「挨拶の日本語」を見つめ直す					
事前学修	あいさつの日本語の特徴を考えてくる				2時間
事後学修	あいさつの日本語についての自身の知識や漠然とした理解の中で見過ごされていたものを自覚する				2時間
4、「挨拶の日本語」データ収集とディスカッション					
事前学修	自分なりのデータを収集しておく				2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する				2時間
5、「心を伝える日本語」を見つめ直す					
事前学修	心を伝える日本語を自分なりに収集しておく				2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する				2時間

6、「心を伝える日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	テキスト該当部分を熟読して自分なりの考えをまとめておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
7、「語りの日本語」を見つめ直す		
事前学修	日常的に使われている日本語の語りことばを整理し直し、その語源や類似語について自身で調べておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
8、「語りの日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	語りの日本語について、テキストを熟読しておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
9、「季節を伝える日本語」を見つめ直す		
事前学修	「季節を伝える日本語」についてテキストを熟読しておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
10、「季節を伝える日本語」データ収集とディスカッション		
事前学修	自分なりに関係資料を読み込んでおく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
11、「日本語のキャラクター図鑑」作成計画		
事前学修	図鑑作成にあたってのイメージを自分なりに作っておく	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
12、作成経過の確認と批評		
事前学修	自分の成果の発表ができるように準備する	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
13、「日本語キャラクター図鑑」完成に向けた修正作業		
事前学修	修正作業のための準備を進める	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
14、「キャラクター図鑑」の公表・交流		
事前学修	発表準備をする	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間
15、交流成果の確認：日本語遣いの達人になるために必要なこと		
事前学修	プレゼンできるように準備する	2時間
事後学修	授業中に指示した課題に沿ってマナバに回答する	2時間

試験等
授業回4, 6, 8, 10において, 授業終了後、各自が作成したワークシートを提出する。 授業回15終了後に、最終レポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後のワークシートについてはアドバイスも含めて後日返却。 最終レポート講評はマナバにおいて実施する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日本文化キャラクター図鑑「日本語」ことばは時をこえる！ 村中李衣文 おくやまひでとし絵 玉川大学出版部 ISBN:978-4-472-05946-9
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受ける
連絡先
murataka@m.ndsu.ac.jp(村中)
留意事項
これまで意識されていなかった「日本語」の魅力を、自身の表現力を用いながら豊かに見つけていきましょう。 書くことや読むことが苦手でも、まったく大丈夫です。

日本語表現III				単位数	2単位
授業コード	12160	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	村中 李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
名文ではなく、自分らしい日本語表現を体得できるための具体的なレッスンを重ねていく。最終的には、随筆、詩、短歌、童話等ジャンルを問わず、他者の心に響く創作に挑戦し、全員で講評する。また、よい文章を見分ける批評眼も養い、さまざまな実社会での文章作成の要求に対応できる力を養う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	目的に沿った自分らしい日本語表現ができる。			知識・技能	
2	飾り立てた日本語表現でなく、わかりやすく他者の心に響く日本語を用いて文章が書ける表現力を体得している			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	他者の批評を参考にしながら、自身の納得のいく自己表現の結晶として、作品を仕上げるができる			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	テキストに沿った12のワークの達成度 60%			1／2／3	
2	最終提出課題 40%			3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
児童文学の実作者として、作品を仕上げるために必要な技法とその習得の仕方を具体的な例を挙げながら毎回指導していく					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1、日本語で表現する面白さと難しさについて					
事前学修	日本語の難しさやあいまいさについて自分なりの考えをまとめておく			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
2、素材の収集法について					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
3、自分の言葉を持つ					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語後の事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
4、独自の視点を持つ					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
5、「書きたいこと」を見つける					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	

6、キャラクター設定の手法		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
7、起承転結神話を壊す		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
8、自分の表現設計図を創る		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
9、出だしの400字を点検する		
事前学修	出だしを書いてくる	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
10、書けるところまで書いてみる		
事前学修	書けるところまで書いて、授業に発表できるようにしてくる	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
11、何が足りないのかを発見する		
事前学修	自分の作品の足りないと思われる部分をまとめておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
12、「日本語表現」の核がぶれていないか、自分の表現を点検する		
事前学修	自分の作品の長所短所を発表できるようにしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
13、他者の「日本語表現」の核を見極める		
事前学修	マナバで他者の作品を読んでおく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
14、それぞれの作品を味わう		
事前学修	自分の作品朗読の練習をしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
15、改めて日本語で表現する面白さと難しさについて考える		
事前学修	日本の面白さと学びを発表できるようにしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間

試験等
15回目の授業終了後に最終レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
マナパにて、各自の最終レポートについての講評とアドバイスを行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中李衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
「こどもの本」の創作講座 金子書房 ISBN番号 4760824413
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中李衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中）
留意事項
文章を書くのが苦手な人こそぜひ。名文書きになる必要はありません。日本語遣いが楽しくなるようにいっしょに工夫しながら授業を進めていきましょう。

日本語表現C			単位数	2単位	
授業コード	12165	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	村中 李衣				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
名文ではなく、自分らしい日本語表現を体得できるための具体的なレッスンを重ねていく。最終的には、随筆、詩、短歌、童話等ジャンルを問わず、他者の心に響く創作に挑戦し、全員で講評する。また、よい文章を見分ける批評眼も養い、さまざまな実社会での文章作成の要求に対応できる力を養う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	目的に沿った自分らしい日本語表現ができる。			知識・技能	
2	飾り立てた日本語表現でなく、わかりやすく他者の心に響く日本語を用いて文章が書ける表現力を体得している			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	他者の批評を参考にしながら、自身の納得のいく自己表現の結晶として、作品を仕上げるができる			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	テキストに沿った12のワークの達成度 60%			1／2／3	
2	最終提出課題 40%			3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
児童文学の実作者として、作品を仕上げるために必要な技法とその習得の仕方を具体的な例を挙げながら毎回指導していく					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1、日本語で表現する面白さと難しさについて					
事前学修	日本語の難しさやあいまいさについて自分なりの考えをまとめておく			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
2、素材の収集法について					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
3、自分の言葉を持つ					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語後の事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
4、独自の視点を持つ					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	
5、「書きたいこと」を見つける					
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む			2時間	
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめmanaバに回答			2時間	

6、キャラクター設定の手法		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
7、起承転結神話を壊す		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
8、自分の表現設計図を創る		
事前学修	前回の授業中に指示したに日本語についての事前課題に取り組む	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
9、出だしの400字を点検する		
事前学修	出だしを書いてくる	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
10、書けるところまで書いてみる		
事前学修	書けるところまで書いて、授業に発表できるようにしてくる	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
11、何が足りないのかを発見する		
事前学修	自分の作品の足りないと思われる部分をまとめておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
12、「日本語表現」の核がぶれていないか、自分の表現を点検する		
事前学修	自分の作品の長所短所を発表できるようにしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
13、他者の「日本語表現」の核を見極める		
事前学修	マナバで他者の作品を読んでおく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
14、それぞれの作品を味わう		
事前学修	自分の作品朗読の練習をしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間
15、改めて日本語で表現する面白さと難しさについて考える		
事前学修	日本の面白さと学びを発表できるようにしておく	2時間
事後学修	授業を受けて自分の考えがどう変わったか、学びの成果をまとめマナバに回答	2時間

試験等
15回目の授業終了後に最終レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
マナパにて、各自の最終レポートについての講評とアドバイスを行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中李衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
「こどもの本」の創作講座 金子書房 ISBN番号 4760824413
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
「こどもの本」の創作講座／村中李衣／金子書房／1800／9784760824410／冊子版
なし
オフィスアワー
授業終了後教室で質問を受け付ける
連絡先
muranaka@m.ndsu.ac.jp（村中）
留意事項
文章を書くのが苦手な人こそぜひ。名文書きになる必要はありません。日本語遣いが楽しくなるようにいっしょに工夫しながら授業を進めていきましょう。

日本語表現Ⅴ				単位数	2単位
授業コード	12185	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。 全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く（聞く）」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分～1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー」「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4／5	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶということ（森田）					
事前学修	・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）				
事後学修	・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。				
2. 伝える力・聞く（聴く）①～自己紹介①（森田）					
事前学修					
事後学修					
3. 伝える力・聞く（聴く）②～自己紹介②（森田）					
事前学修					
事後学修					
4. 非言語がもつ力～表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは（森田）					
事前学修					
事後学修					
5. 「身近なく仕事人（ひと）」にインタビュー①～準備、依頼の仕方（森田）					
事前学修					
事後学修					

6. 「身近なく仕事（びと）>にインタビュー」②～相手の話を引き出す質問 （森田）		
事前学修		
事後学修		
7. 書く力・読む力～新聞、情報誌から見る「伝わる文章」 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
8. 「おすすめの岡山」を書く①～文章作成 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
9. 「おすすめの岡山」を書く②～口頭発表 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
10. 「身近なく仕事人（びと）>にインタビュー」③～進捗確認、インタビューの課題点を探る（森田）		
事前学修		
事後学修		
11. 「おすすめの岡山」を書く③～まとめ （久保田）		
事前学修		
事後学修		
12. 『やさしい日本語』とは①～日本語表現と『やさしい日本語』の共存 （森田）		
事前学修		
事後学修		
13. 『やさしい日本語』とは②～『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習 （森田）		
事前学修		
事後学修		
14. 「身近な仕事人（びと）にインタビュー」④～口頭発表 （森田）		
事前学修		
事後学修		
15. 定期試験（口頭発表）		
16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど		
事前学修		
事後学修		

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考資料＞ ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

日本語表現D				単位数	2単位
授業コード	12190	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。 全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどで「聴く（聞く）」「伝える」の演習を行う中で、学生自身が課題とした点や学んだ要素を日常の中で活かす習慣づくりの機会をもつ。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ワーク			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して1分～1分30秒で簡潔に口頭で伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	インタビューや日常生活の中で、他者の話を聞く場面において、「傾聴」のポイントを実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	読み手、聴き手に関心を持たせる「タイトル」「キーワード」「構成」作りができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	多種多様な人々に伝わる『やさしい日本語』の存在と意義を説明し活用のきっかけを持つことができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「身近なく仕事人」にインタビュー」「おすすめの岡山」『やさしい日本語』一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4／5	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶということ（森田）					
事前学修	・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること。 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）				
事後学修	・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分）。 ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）。				
2. 伝える力・聞く（聴く）①～自己紹介①（森田）					
事前学修					
事後学修					
3. 伝える力・聞く（聴く）②～自己紹介②（森田）					
事前学修					
事後学修					
4. 非言語がもつ力～表情・しぐさ・身体表現などがもつ影響力とは（森田）					
事前学修					
事後学修					
5. 「身近なく仕事人（ひと）」にインタビュー①～準備、依頼の仕方（森田）					
事前学修					
事後学修					

6. 「身近なく仕事（びと）>にインタビュー」②～相手の話を引き出す質問 （森田）		
事前学修		
事後学修		
7. 書く力・読む力～新聞、情報誌から見る「伝わる文章」 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
8. 「おすすめの岡山」を書く①～文章作成 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
9. 「おすすめの岡山」を書く②～口頭発表 （久保田）		
事前学修		
事後学修		
10. 「身近なく仕事人（びと）>にインタビュー」③～進捗確認、インタビューの課題点を探る（森田）		
事前学修		
事後学修		
11. 「おすすめの岡山」を書く③～まとめ （久保田）		
事前学修		
事後学修		
12. 『やさしい日本語』とは①～日本語表現と『やさしい日本語』の共存 （森田）		
事前学修		
事後学修		
13. 『やさしい日本語』とは②～『やさしい日本語』基本用語の言い換え書き換え演習 （森田）		
事前学修		
事後学修		
14. 「身近な仕事人（びと）にインタビュー」④～口頭発表 （森田）		
事前学修		
事後学修		
15. 定期試験（口頭発表）		
16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど		
事前学修		
事後学修		

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「おすすめの岡山」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考資料> ・授業でプリントを配布する ・『やさしい日本語』の授業における参考資料として、岡山県国際課「やさしい日本語」を参照すること。 岡山県のホームページ→国際課→『やさしい日本語』→「やさしい日本語の手引き」で検索。 授業時に、「やさしい日本語の手引き」を配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明のほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

日本語表現Ⅵ				単位数	2単位
授業コード	12195	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く（聞く）」「伝える」の演習を繰り返す。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5	
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4	
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題（35%）			1／2／3／4／5	
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4	
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的（森田）					
事前学修	・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）				
事後学修	・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分） ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）				
2. 伝える力と構成力 ～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察（久保田）					
事前学修					
事後学修					
3. 聞く（聴く）力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは（森田）					
事前学修					
事後学修					
4. 聞く（聴く）力②～「質問の種類」（久保田）					
事前学修					
事後学修					
5. 他己紹介①～他者取材するポイントと他者取材（森田）					
事前学修					
事後学修					

6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする（口頭発表）（森田）		
事前学修		
事後学修		
7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する（文章表現）（久保田）		
事前学修		
事後学修		
8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方（森田）		
事前学修		
事後学修		
9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード（森田）		
事前学修		
事後学修		
10. 電話対応～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現（森田）		
事前学修		
事後学修		
11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しにくかったか」の考察（森田）		
事前学修		
事後学修		
12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方（久保田）		
事前学修		
事後学修		
13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう（森田）		
事前学修		
事後学修		
14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表（森田）		
事前学修		
事後学修		
15. 定期試験（口頭発表）		
16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど		
事前学修		
事後学修		

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
＜参考資料＞
・授業でプリントを配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気を付けること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

日本語表現E				【単位数		2単位
授業コード	12200	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期	
担当者氏名	森田 恵子、久保田 正彦					
時間割備考						
授業形態（主）	1 講義					
授業形態（副）	2 演習					
担当形態	オムニバス					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
本授業は、日本語表現において「伝わる伝え方」を学ぶことで、「聴く（聞く）」と「伝える（話す）」、「読む」「書く」の相関性を理解し、実生活で習慣化できるコミュニケーション力の基礎を修得することを目的とする。全体の授業を通して、ペアワーク、グループワーク、発表、プレゼンテーションなどを行う。日頃使っている言葉や敬語表現の棚卸し、幅広い書籍を通しての言葉や表現の発見、電話対応での言葉の選び方を通して、「聴く（聞く）」「伝える」の演習を繰り返す。 これらを統合し、「コミュニケーション」の分野における「相手を受け取る」「要点や思いが伝わる技術」という課題点も考察する。 授業で提示された課題に授業外で取り組み自主学習を行う。						
アクティブラーニングの実施内容						
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	自分自身の「コミュニケーション」（人との関り方）の状態を知ることができる			思考・判断・表現力／主体性		
2	自己紹介やその他のテーマに対して「構成法」を使い簡潔に伝えることができる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	短い文章で要点や思いを端的に伝える「キーワード」が作れるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4	他者や事柄などを授業や日常の中で調べ、また聞く場面において、「傾聴」「質問」の要点を実行できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
5	様々な場面で質問や意見を問われた際に、臨機応変に対応する練習ができるようになる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
成績評価の基準				対応する到達目標の番号		
1	毎回の授業内でのマナーやワーク、発表、課題点への考察の取り組み方などの受講態度（15%）			1／2／3／4／5		
2	ミニレポート提出（テーマは授業内で伝える）（15%）			1／3／4		
3	「他己紹介」「ブックリストの交換」「フリートーク」一連の課題（35%）			1／2／3／4／5		
4	口頭発表による定期試験（14回目の授業で試験テーマを発表）（35%）			1／2／3／4		
5						
実務経験のある教員による授業科目		実務あり				
実務経験の授業への活用方法						
元放送局アナウンサー、取材、番組制作の経験、現在は【人材育成事業】【アナウンスメント事業】【文化事業】を軸とし会社経営を行い、行政、企業、医療、教育機関、個人に対してのコミュニケーションを中心とした人材育成、キャリア教育などに携わっている経験から、日本語表現とコミュニケーションの問題点を多視点で取り上げ、学生に実践的かつ習慣性のある取り組みを促す。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間				
1. 講義内容の情報共有～「日本語表現」を学ぶ意義と目的（森田）						
事前学修	・授業予定を確認し、そのテーマに関して自分自身の関心点、疑問点をメモし授業に参加すること 参考資料が提示されている場合は、その資料を熟読しておくこと（約30分）					
事後学修	・毎回の授業で自身が発見した課題点に対し取り組んだ記録を残し授業内で共有するための準備（約30分） ・予習・復習を通して出てきた疑問点や講師への質問などを適宜記録すること（約10分～20分）					
2. 伝える力と構成力 ～自己紹介を通して、リソース、組み立て、アピールポイントの考察（久保田）						
事前学修						
事後学修						
3. 聞く（聴く）力①～「聴く」「受容」「承認」の段階とは（森田）						
事前学修						
事後学修						
4. 聞く（聴く）力②～「質問の種類」（久保田）						
事前学修						
事後学修						
5. 他己紹介①～他者を取材するポイントと他者取材（森田）						
事前学修						
事後学修						

6. 他己紹介②～他者の魅力をアピールする（口頭発表）（森田）		
事前学修		
事後学修		
7. 他己紹介③～他者の魅力を紹介する（文章表現）（久保田）		
事前学修		
事後学修		
8. 「ブックリスト交換」①～準備、リストの作り方（森田）		
事前学修		
事後学修		
9. 言葉づかい～日常の言葉づかい、敬語、クッション言葉、NGワード（森田）		
事前学修		
事後学修		
10. 電話対応～「電話のかけかた」「受け方」から見る日本語表現（森田）		
事前学修		
事後学修		
11. フリートーク①～当日に提示されたテーマを用い「何が話しにくかったか」の考察（森田）		
事前学修		
事後学修		
12. フリートーク②～情報収集の引き出しの作り方（久保田）		
事前学修		
事後学修		
13. ブックリスト交換②～リスト交換をし、好きな本を伝えあう、聞きあう（森田）		
事前学修		
事後学修		
14. ブックリスト交換③～ブックリストについての口頭発表（森田）		
事前学修		
事後学修		
15. 定期試験（口頭発表）		
16. 【授業】定期試験のフィードバック、まとめなど		
事前学修		
事後学修		

試験等
15週目に、口頭発表による定期試験を行う。テーマ、時間は、14週目の授業で伝達する。
試験のフィードバックの方法
・授業中に提示されたミニレポートについては、進捗を確認しながら授業内でポイント解説を行う ・授業内での口頭発表などについては、進捗を確認しながら、全体、個人へのフィードバックを行う ・「他己紹介」のレポートは添削後、返却を行う ・試験のフィードバックは、16週目に実施
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
使用しない
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考資料>
・授業でプリントを配布する
オフィスアワー
質問は必要に応じて、電子メールで受け付ける
連絡先
s8268@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・本授業では、学生たちで授業を作り上げていく意識をもってほしい。発表の場への貢献を大いに望むが、上手に流ちょうに発表することを評価するわけではない ・マナバ、Nサポからの発信を見逃さないように気をつけること ・授業での説明そのほか、疑問点不明点は遠慮せずに尋ねること ・定員は60名とする

共生と文化を考える				単位数	2単位
授業コード	12896	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
わたしたちが生きているこの社会は、背景、信条・価値観、アイデンティティなどが異なる多様な人々によって構成されている。しかし社会の制度は、多数派か少数派かという以外にも、優勢・劣勢、中央・周縁、支配・被支配といった関係性を備えていることがある。本科目のねらいは、日本において「マイノリティ」を自認したり、そのように括られたりする傾向にある人々の生（歴史と現状）を通じて、社会にある抑圧や排除の問題への理解を深め、多様な人々が同じ社会のなかで共に生きていくための方法を探究することにある。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	他者の生、自分との関連性を多角的に考察できる			思考・判断・表現力／主体性	
2	自分の気づきや考え、取り上げたテーマ間の関連性と共通性を論理的かつ具体的に説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	テーマに関連する事柄をインターネットに頼らず書籍・論文から主体的に調べ、課題に反映できる			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み態度 20%			1／2	
2	リアクションペーパー 40%			1／2／3	
3	レポート 40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧				事前・事後学修内容と時間	
1. イントロダクション：「マイノリティ」とは					
事前学修	「マイノリティ」とは誰なのかについて、また履修する理由、意義を考え、まとめる				1時間
事後学修	世間一般の「マイノリティ」理解の問題性を考えつつ、履修する理由、意義を再整理し、まとめる				1時間
2. 国民国家とマイノリティ					
事前学修	「国民国家」という概念について書籍を調べ、まとめる				2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「国民国家」の特徴について考察し、まとめる				2時間
3. 先住民族と少数民族					
事前学修	世界の先住民族と少数民族を取り巻く現状について書籍を調べ、まとめる				2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、先住民族と少数民族の共通点と相違点について考察し、まとめる				2時間
4. グローバル化とナショナリズム					
事前学修	近年におけるナショナリズムの台頭について新聞記事や書籍から事例を探し、まとめる				2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、グローバル化とナショナリズムの関係性について考察し、まとめる				2時間
5. 特権と抑圧を考える					
事前学修	社会心理学をてがかりとして、「特権」という概念について書籍を探し、まとめる。また、何が他者にとって「抑圧」になるのか考察し、まとめる				2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、自分の特権について考察し、まとめる				3時間

6. 特権と差別を考える		
事前学修	特権と差別の関係について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、自分の特権の使い方と差別に抗うことの関係について考察し、まとめる	3時間
7. アイヌ		
事前学修	アイヌの人々の歴史および現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、国民国家との関連からアイヌの人々が強いられてきた犠牲について批判的に考察し、まとめる	2時間
8. ケガレと「部落」		
事前学修	いわゆる「被差別部落」の人々の歴史および現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「被差別部落」など、特定の人々を被差別カテゴリーに括る社会の制度・構造について批判的に考察し、まとめる	2時間
9. 人間の「優劣」と「障がい」		
事前学修	「障害の個人モデル」と「障害の社会モデル」を切り口として書籍を探し、「障がい者」とは誰なのかについて考察し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、人々を優劣で分類する傾向にある社会の制度・構造について批判的に考察し、まとめる	2時間
10. 文明言説とハンセン病		
事前学修	ハンセン病回復者（病歴者）とその家族がたどった歴史および現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「国の（発展・安全の）ため」や「社会に貢献するため」といったスローガンを批判的に考察し、まとめる	2時間
11. 菊池事件から考える憲法		
事前学修	憲法の存在目的について書籍を探し、まとめる。また、冤罪事件について書籍を探し、冤罪事件と抑圧・偏見差別の関係について考察し、まとめる。	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、特定の人々の権利、尊厳を奪う社会の制度・構造について批判的に考察し、まとめる	2時間
12. ジェンダーとセクシュアリティ		
事前学修	ジェンダーとセクシュアリティの違いについて書籍を探し、まとめる。	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、日本の家族主義、婚姻制度、ジェンダー規範との関係から、セクシュアル・マイノリティの人々が抱く生きづらさを考察し、社会の制度・構造の課題をまとめる	2時間
13. 外国にルーツをもつ人々		
事前学修	いわゆる「ハーフ」の人々の歴史およびかれらが現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「ハーフ」の人々が抱く生きづらさを考察し、日本社会の制度・構造の課題をまとめる	2時間
14. 在日コリアン、華人・華僑、無国籍者		
事前学修	在日コリアン、華人・華僑の人々の歴史および現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、国民国家、さらには植民地主義との関連から、在日コリアン、華人・華僑、無国籍者の人々が抱く生きづらさを考察し、日本社会の制度・構造の課題をまとめる	2時間
15. 中国残留日本人		
事前学修	日本の満州支配とそこへの移住の歴史およびその移住者やその子孫が現在置かれた状況について書籍を探し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「日本人らしさ」という言説と抑圧・偏見差別について批判的に考察し、まとめる	2時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
中型聖書 横組 N I 3 4 D C H／／日本聖書協会／3100／9784820212027／冊子版
<参考書> ・小早川明良 2018 『被差別部落の真実：制作された「部落の仕事と文化」イメージ』にんげん出版 ISBN 978-4-93-134446-4 ・堀江有里 2015 『レズビアン・アイデンティティーズ』洛北出版 ISBN 978-4-90-312722-4 ・雨宮処凜（編） 2019 『この国の不寛容の果てに：相模原事件と私たちの時代』大月書店 ISBN 978-4-27-233097-3 ・田中等 2017 『ハンセン病の社会史』彩流社 ISBN 978-4-77-912330-6 ・下地ローレンス吉孝 2018 『「混血」と「日本人」：ハーフ・ダブル・ミックスの社会史』青土社 ISBN 978-4-7917-7094-6 ・小熊英二・高賛侑・高秀美（編）2016 『在日二世の記憶』集英社 ISBN 978-4-08-720857-3 ・徐翠珍 2020 『華僑二世徐翠珍の在日：その抵抗の軌跡から見える日本の姿』東方出版 ISBN 978-4-86249-386-6 ・陳天璽 2022 『無国籍と複数国籍：あなたは「ナニジン」ですか？』光文社 ISBN 978-4-33-404615-6 ・井出孫六 2008 『中国残留邦人：置き去られた六十余年』岩波書店 ISBN 978-4-00-431119-5 * その他は授業時またレジュメにおいて示す。 ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 ISBN 978-4-7664-2656-4
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・現代社会における偏見差別等の人権問題、多文化共生、他者・他文化理解に関心がある学生の履修を歓迎する。 ・履修者の理解度に応じて、授業スケジュールに変更が生じたり、ディスカッションの場を設けたりすることがある。 ・本科目は、講義とあわせて視聴覚教材（ドキュメンタリー、講演会映像等）を多用しながら進められる。 * 本科目は2022年度1期「アジアと平和を考える」ないし2023年度および2024年度の2期「キリスト教学VIII」と内容が重なる。そのため、同科目の単位を取得した学生が本科目の履修を希望する場合は、履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

自立力育成ゼミII				単位数	2単位
授業コード	12936	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	Christopher Creighton				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独／複数				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
The Inujima Social Design Study Group focuses on Social Design, which seeks to address global social issues through local action and individual empowerment. In this course, students will explore sustainability, community, and ways to improve the quality of life on Inujima, a small island in the Seto Inland Sea, part of Okayama City. Currently, Inujima reflects the inevitable consequences of a consumerist society, as seen in its industrial and population decline. At the same time, the island serves as a “living laboratory”, demonstrating how culture, art, and communication can contribute to sustainable renewal. This program is centered around six daylong workshops at the Inujima Life Garden, a project managed by the Benesse Art Site Naoshima. Students will engage in individual research, paired activities, and group projects, interacting with both the island’s elderly residents and international exchange students to understand social change and develop intercultural and inter-generational communication skills.					
犬島ソーシャルデザイン研究会は、地域での行動と個人のエンパワーメントを通じて、グローバルな社会課題の解決を目指すソーシャルデザインに焦点を当てています。本講座では、持続可能性、コミュニティ、そして犬島（岡山市に属する瀬戸内海の小さな島）の生活の質を向上させる方法について探究します。現在、犬島は現代社会の不可避な影響を反映しており、産業衰退や人口減少が進んでいます。一方で、この島は**「生きた実験室」**として、文化・芸術・コミュニケーションが持続可能な再生にどのように貢献できるかを示す場にもなっています。本プログラムは、ベネッセアートサイト直島が管理する現代アート施設犬島ライフギャラリーにおける6回のワークショップを中心に展開されます。学生は、個別研究、ペア活動、グループプロジェクトを通じて、島の高齢住民や留学生と交流し、社会変化を理解しながら、異文化間および世代間のコミュニケーションスキルを育成します。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Develop Social Design Solutions: students will improve their knowledge of the principles of Social Design and develop their skills in implementing Social Design solutions for real-world problems focusing on sustainability and community engagement on Inujima. Students will use their improved knowledge and skills to execute programs in their own communities. ソーシャル デザイン ソリューションの開発：学生はソーシャル デザインの理念に関する理解を深め、持続可能性と犬島のコミュニティ参加に焦点を当てた実社会の問題に対するソーシャル デザイン ソリューションを実装するスキルを学びます。 学生は、得られた知識とスキルを活用して、自分のコミュニティにおける問題解決にも取り組めるようになります。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	Foster Cross-Cultural Competence: students can adapt to an international context to understand, judge, and express their ideas effectively. Students will learn how to act in a diverse cultural setting. 異文化対応力の育成：学生は、国際的な環境の中で自分の考えを理解し、判断し、効果的に表現する能力を身に付けます。 学生は、多様な文化的環境の中でどのように行動すべきかを学びます。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Cultivate Empathy and Ethical Judgment: students will identify the challenges facing different communities including the aged residents of Inujima and international students. Students will improve their ability to make ethical judgments in their design activities. 共感力と倫理的判断力を養う：学生は、犬島の高齢住民や留学生など、さまざまなコミュニティが直面する課題について理解を深めます。 学生はデザイン活動において倫理的な判断を下す能力を向上させます。			思考・判断・表現力	
4	Promote Initiative and Pro-activeness: students will take the initiative to analyze challenges in their own communities to find achievable goals, proactively developing solutions applying their experience from the context of Inujima. 自発性と積極性を促進する：学生は、犬島での経験を生かして、主体的に解決策を考え、達成可能な目標を見つけるために、自分たちの地域の課題を分析できるようになります。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Pre-workshop preparation: 10% 事前学習での取り組み			1／3／4	
2	Inujima workshop participation: 50% 犬島ワークショップ参加			1／2／3／4	
3	Inujima workshop presentations: 40% 犬島ワークショップ発表会			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					

日本語以外の言語による授業		English—日本語
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間
The course schedule is to be determined. Please note that the workshops take place at the Inujima Life Garden on Saturdays or Sundays from 08:30 to 17:00. Workshops dates may change due to poor weather.		
1. Orientation sessions at Notre Dame Seishin University: What is Social Design? What is Inujima and how is it important?		
講座スケジュールの詳細は確定し次第案内します。 ワークショップは犬島くらしの植物園で土曜または日曜の08:30～17:00に開催されます。 悪天候によりワークショップの日程が変更になる場合があります。		
1. ノートルダム清心大学でのオリエンテーション～ソーシャルデザインとは？ 犬島の紹介とその重要性		
事前学修	Students research documentaries on depopulation in Japan and watch one. They prepare a brief report summarizing the documentary. 学生は日本の過疎化についてのドキュメンタリーを調べ、そのうちの1本を視聴します。そして、ドキュメンタリーの内容を簡単にまとめたレポートを作成します。	90 minutes
事後学修	Students write a short report on the themes and issues presented in the class lecture and discussion. 学生は、授業の講義およびディスカッションで提示されたテーマや課題について、短いレポートを作成します。	60 minutes
Students learn the fundamentals of planning and its role in achieving goals. They explore the Thinking-Planning-Doing model. Next, participants learn to set goals, distinguishing between long- and short-term objectives. Using the SMART framework (Specific, Measurable, Achievable, Relevant, Time-bound), they create clear goals and learn to structure tasks, timelines, and roles while remaining adaptable. They then plan the project previously identified. Participants discuss time management and reacting to unexpected challenges. The workshop concludes by reinforcing a planning mindset, encouraging structured thinking, adaptability, and proactive organization in daily life. 学生たちは、計画の基本とその重要性を学び、「思考・計画・実行」モデルを通じて、計画のプロセスを理解します。次に、SMARTフレームワーク（具体的・測定可能・達成可能・関連性・期限設定）を用いて、長期目標と短期目標の違いを学びます。タスクの整理、スケジュール作成、役割分担を実践しながら、柔軟性を保つ重要性を理解します。その後、事前に考えたプロジェクトの計画を立てます。参加者は、時間管理や予期せぬ課題への対応について話し合います。ワークショップの最後には、計画的思考の重要性を強調し、論理的思考、適応力、積極的な計画立案を日常に活かせるよう促します。		
事前学修	Participants should reflect on a time they faced difficulties due to a lack of planning and write a short paragraph about what went wrong and how better planning might have helped. Next, identify an example of good planning they've seen in daily life, school, or work. Participants note what made the planning effective (e.g., clear goals, organization, teamwork). Participants should think of a simple project they want to plan related to the Inujima Social Design Study group. They will use this project during the workshop. 参加者は以下の準備をしてください。 計画不足による困難な経験を振り返る そのとき何が問題だったのか、適切な計画があればどう改善できたかを簡潔に書く。 日常生活、学校、または仕事で見た良い計画の例を挙げる その計画が効果的だった理由（例：明確な目標、組織力、チームワーク）を整理する。 小規模なプロジェクトのアイデアを考える 犬島ソーシャルデザイン研究会に関連するシンプルなプロジェクトを計画する。 このプロジェクトはワークショップ内で活用する。	90 minutes
事後学修	Participants write a short reflection on: Key takeaways from the workshop What planning skills did they improve? What strategies will they apply in their future projects? Action Plan for Future Application Set one short-term and one long-term goal in their daily life outside of the workshop that requires planning. Outline the steps they will take to achieve these goals 参加者は以下の内容について短い振り返りを書いてください。 ワークショップの主な学び どのような計画スキルが向上したか？ 今後のプロジェクトでどの戦略を活用するか？ 今後の実践計画 ワークショップ外の日常生活で、計画が必要な短期目標と長期目標をそれぞれ設定する。 その目標を達成するための具体的なステップを整理する。	60 minutes
Participants improve their ability to communicate clearly, effectively, and appropriately in various settings. The session covers key communication skills, including active listening, clarity, persuasion, and adapting to different audiences. Participants practice negotiations, analyze cultural communication differences, and refine their self-introductions through peer feedback. Participants will have developed greater confidence and awareness in their communication style, enabling them to apply these skills in academic, professional, and social interactions. 参加者は、さまざまな場面で明確かつ効果的、適切にコミュニケーションを取る能力を向上させます。本セッションでは、アクティブリスニング、明瞭な表現、説得力のある話し方、状況に応じた適応力など、重要なコミュニケーションスキルを学びます。参加者は交渉の練習を行い、異文化間のコミュニケーションの違いを分析し、ピアフィードバックを通じて自己紹介を磨きます。最終的に、参加者は自分のコミュニケーションスタイルに対する自信と認識を深め、学業、職場、社会的な場面でこれらのスキルを活用できるようになります。		
事前学修	Participants should write about a time when communication went poorly (misunderstanding, lack of response, difficulty expressing ideas) and consider what could have been done differently. Next, they should identify an example of effective communication they have seen (teacher, leader, friend, media). They need to note what made the communication successful (e.g., tone, clarity, body language). Participants need to prepare a Short Self-Introduction. 参加者は、コミュニケーションがうまくいかなかった経験（誤解、返答がない、考えをうまく伝えられなかったなど）について書き、どのようにすれば改善できたかを考えます。次に、効果的なコミュニケーションの例（教師、リーダー、友人、メディアなど）を挙げ、その成功の要因（例：話し方、明瞭さ、ボディランゲージ）を整理します。また、自己紹介の準備を行います。	90 minutes
事後学修	Participants write a short reflection on: What communication skills did they improve? What surprised them about their communication habits? Participants also identify one communication habit to improve over the next month and how they will track progress and seek feedback. 参加者は、以下の内容について短い振り返りを書きます。 向上したコミュニケーションスキル どのスキルが改善されたか？ 自分のコミュニケーション習慣について意外だった点は何か？ 今後の改善計画 来月の間に改善したいコミュニケーション習慣の一つ挙げる。 どのように進捗を確認し、フィードバックを得るかを計画する。	60 minutes

Workshop 1: Introduction to Social Design on Inujima Students will learn about the concept of social design within the context of Inujima' s transformation. The workshop includes an overview of the island' s history, a museum visit, and field research. ワークショップ 1: 犬島のソーシャルデザイン入門 - 犬島の変革の文脈の中でのソーシャルデザインの理念について学びます。 歴史の概要、博物館訪問、 現地調査が含まれます。		
事前学修	Preparation Background Research - Read about Inujima' s history, industrial decline, and revitalization efforts. Key Concepts - Review fundamental principles of social design and case studies of similar projects. Observation Focus - Prepare guiding questions for the museum visit and field research (e.g., "How has art influenced Inujima' s renewal?"). 準備 背景調査 - 犬島の歴史、産業の衰退、再生の取り組みについて調べる。 主要概念の理解 - ソーシャルデザインの基本理念や、類似プロジェクトの事例を確認する。 観察の焦点 - 博物館訪問や現地調査のためのガイド質問を準備する（例：「芸術は犬島の再生にどのような影響を与えたか？」）。	90 minutes
事後学修	Reflection Key Insights - Summarize main takeaways from the lecture, museum visit, and field research. Personal Perspective - Reflect on how social design principles apply to Inujima' s transformation. Future Application - Consider how these concepts can be applied to other communities or personal projects. Production students post their thoughts, reflections, and photos on the blog page. 振り返り 主な学び - 講義、博物館訪問、現地調査から得た重要なポイントをまとめる。 個人的視点 - 犬島の変革にソーシャルデザインの理念がどのように適用されているかを考察する。 今後の応用 - これらの概念を他の地域社会や自身のプロジェクトにどのように活かせるかを検討する。制作学生は、自分の考えや振り返り、写真をブログページに投稿します。	60 minutes
Workshop 2: Intercultural Communication and CollaborationStudents will learn how to communicate effectively in diverse groups. The workshop includes practical activities in pairs or small groups, where students interact closely with the local community, especially elderly residents and international students. ワークショップ 2: 異文化間のコミュニケーションとコラボレーション - 多様なグループで効果的なコミュニケーションを図ります。 ペアまたは小グループでの実践的な活動が含まれており、学生は地域社会、特に高齢者や留学生と密に交流します。		
事前学修	PreparationReview simple phrases and gestures to build communication in intercultural and inter-generational settings. Think about challenges in communicating with people from different backgrounds.Consider differences in verbal and non-verbal communication between your culture and others. Prepare a Personal Introduction in English or another language. Prepare questions to ask elderly residents or international students. 準備簡単なフレーズやジェスチャーを確認し、異文化・異世代の環境でのコミュニケーションを築く方法を学ぶ。異なる背景を持つ人々とのコミュニケーションにおける課題について考える。 自分の文化と他の文化の言語的・非言語的な違いを考慮する。自己紹介を英語または他の言語で準備する。 高齢者や留学生に質問する内容を考えておく。	90 minutes
事後学修	Students contribute their thoughts and photos to the Inujima Social Design Study Group blog. In their blog posts, they reflect on any key experiences and write about a meaningful conversation they had during the workshop. They also reflect on how they think they can improve their intercultural and inter-generational communication skills. 学生は、犬島ソーシャルデザイン研究会のブログに、自分の考えや写真を投稿します。 ブログ記事では、ワークショップでの重要な経験を振り返り、印象に残った会話について書きます。 また、異文化・異世代間のコミュニケーションスキルをどのように向上させられるかについても考察します。	60 minutes
Presentation SkillsAim: To equip students with essential presentation skills, including selecting a message suited to the audience, using effective visuals, incorporating convincing evidence, and improving delivery through language skills and eye contact. プレゼンテーションスキル目的: 学生が効果的なプレゼンテーションスキルを身につけることを目指します。これには、聴衆に適したメッセージの選択、効果的なビジュアルの活用、説得力のある証拠の提示、言語スキルやアイコンタクトを用いた伝え方の向上が含まれます。		
事前学修	Students choose and watch a presentation they think effective and take notes on what makes it effective. Students then choose a simple topic and create an outline, focusing on audience, message, and structure. They select one visual aid to support the message and record a 30-second introduction of the simple topic, focusing on tone and clarity modeled on the chosen example presentation. Students self-evaluate their strengths and areas for improvement. 学生は、効果的だと思うプレゼンテーションを選んで視聴し、そのプレゼンテーションのどこが優れているのかをメモします。 その後、学生はシンプルなトピックを選び、聞き手・メッセージ・構成に重点を置いてアウトラインを作成します。メッセージを補強するために1つの視覚資料を選び、選んだプレゼンテーションをモデルにして、30秒の導入部分を録音します（トーンや明瞭さに注意する）。最後に、自分の強みと改善点を自己評価します。	90 minutes
事後学修	Post-Presentation EvaluationStudents exchange feedback with a partner on eye contact, gestures, and confidence. Students write a short reflection on what went well and what could be improved in their presentation considering message clarity, visual effectiveness, and delivery skills. Students identify one aspect (e.g., pacing, eye contact, use of visuals) to improve in future presentations. プレゼンテーション後の評価 学生は、アイコンタクト、ジェスチャー、自信についてペアでフィードバックを交換する。 学生は、メッセージの明確さ、ビジュアルの効果、伝え方のスキルを考慮し、プレゼンテーションでうまくいった点と改善できる点について短い振り返りを書く。 学生は、話す速さ、アイコンタクト、ビジュアルの活用など、今後のプレゼンテーションで向上させたい1つのポイントを特定する。	60 minutes
Workshop 3: Environmental and Community-Based Project Design - identifying challenges and making plans to meet those challenges. The plans use sustainability and community engagement. ワークショップ 3: 環境と地域を基盤としたプロジェクト設計 - 課題を特定し、それに対応する計画を立てます。計画には、持続可能性と地域の参加を取り入れます。		
事前学修	Participants think and plan the activities for Workshop 3. 参加者は、ワークショップ3の活動を考え、計画する。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes

Theme: Introducing the Inujima Social Design Study Group to a new group of exchange students. テーマ：交換留学生の新しいグループに犬島ソーシャルデザイン研究会を紹介する。		
事前学修	Students review key presentation skills: audience, clear message, effective visuals, and convincing delivery. Students create a presentation with an introduction, what does the Inujima Social Design Study Group do, the benefits of participation, and a conclusion. Students practice and improve their presentation content, delivery, and visuals. 学生は、プレゼンテーションの重要なスキル（聴衆の理解、明確なメッセージ、効果的なビジュアル、説得力のある伝え方）を復習する。学生は、以下の構成でプレゼンテーションを作成する。 導入（イントロダクション） 犬島ソーシャルデザイン研究会の活動内容 参加するメリット 結論学生は、プレゼンテーションの内容・伝え方・ビジュアルを練習し、改善する。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
Workshop 4: Environmental and Community-Based Project Design - identifying challenges and making plans to meet those challenges. The plans use sustainability and community engagement. ワークショップ 4：環境と地域を基盤としたプロジェクト設計 - 課題を特定し、それに対応する計画を立てます。計画には、持続可能性と地域の参加を取り入れます。		
事前学修	Participants think and plan the activities for Workshop 4. 参加者は、ワークショップ4の活動を考え、計画する。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
Workshop 5: Environmental and Community-Based Project Design - identifying challenges and making plans to meet those challenges. The plans use sustainability and community engagement. ワークショップ 5：環境と地域を基盤としたプロジェクト設計 - 課題を特定し、それに対応する計画を立てます。計画には、持続可能性と地域の参加を取り入れます。		
事前学修	Participants think and plan the activities for Workshop 5. 参加者は、ワークショップ5の活動を考え、計画する。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
Workshop 6: Environmental and Community-Based Project Design - identifying challenges and making plans to meet those challenges. The plans use sustainability and community engagement. ワークショップ 6：環境と地域を基盤としたプロジェクト設計 - 課題を特定し、それに対応する計画を立てます。計画には、持続可能性と地域の参加を取り入れます。		
事前学修	Participants think and plan the activities for Workshop 6. 参加者は、ワークショップ6の活動を考え、計画する。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
Participants assess the impact of the study group by summarizing key achievements. They do this by a workshop recap outlining the objectives, methods, and outcomes of each workshop. They review the blog posts from the study group and each student writes a memorable achievement post for the blog. 参加者は、研究会の影響を評価し、主要な成果をまとめる。 ワークショップの振り返りを行い、各ワークショップの目的・方法・成果を整理する。 また、研究会のブログ記事を見直し、各学生が印象に残った成果についての投稿をブログに書く。		

事前学修	Students review their blog postings, photographs, and documentation to find highlights and points to improve. 学生は、自分のブログ投稿、写真、資料を見直し、重要なハイライトと改善点を見つける。	90 minutes
事後学修	Students summarize the key achievements of the study group and suggest new directions for the next year. 学生は、研究会の主要な成果をまとめ、来年度に向けた新たな方向性を提案する。	60 minutes
Students analyze the effectiveness of methods used in the study group and identify what worked well and what could be improved. 学生は、研究会で使用された方法の有効性を分析し、うまくいった点と改善できる点を特定する。		
事前学修	Students review what methods were used to teach Social Design in the study group? They list these and reflect on: What methods were used; What worked well; and, What challenges were faced? 学生は、研究会でソーシャルデザインを教えるために使用された方法を振り返る。 これらの方法をリストアップし、以下の点について考察する。 どのような方法が使われたか？ うまくいった点は何か？ どのような課題があったか？	90 minutes
事後学修	Students identify and reflect on key lessons and possible improvements especially feedback from different perspectives. 学生は、重要な学びと改善点を特定し、振り返る。特に、さまざまな視点からのフィードバックに注目する。	60 minutes
Students propose realistic strategies for improvement of the Social Design Study group program and develop the final presentation. 学生は、ソーシャルデザイン研究会プログラムの改善に向けた現実的な戦略を提案し、最終プレゼンテーションを作成する。		
事前学修	Students identify areas for improvement such as communication, organization, participation, and documentation. They create an improvement plan. Each student needs to propose one concrete suggestion to improve future study groups at Inujima. Students will work together to develop the final presentation. The final presentation will review the study group's purpose, summarize key achievements, identify challenges, and make future recommendations. Each student must contribute to the final presentation. 学生は、コミュニケーション、運営、参加、記録などの改善点を特定し、改善計画を作成する。 各学生は、犬島での今後の研究会を改善するための具体的な提案を1つ出す必要がある。学生は協力して最終プレゼンテーションを作成する。 最終プレゼンテーションでは、研究会の目的を振り返り、主要な成果をまとめ、課題を特定し、今後の提言を行う。 全員がプレゼンテーションに貢献することが求められる。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance for the next workshop. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
Students give a final presentation to stakeholders. 学生は、関係者に向けて最終プレゼンテーションを行う。		
事前学修	Presentation: participants will present to the wider community. Presentation content will cover their understanding of Social Design, knowledge of Inujima, experiences on Inujima, and the path forward. プレゼンテーション：参加者は、広いコミュニティに向けて発表を行います。プレゼンテーションの内容は、ソーシャルデザインへの理解、犬島についての知識、犬島での経験、そして今後の展望についてです。	90 minutes
事後学修	Students contribute to the course blog with a report and photos. The content of the report is what they did, who did they work with, how did they evaluate their performance, and what they want to improve about their performance for the next workshop. 学生はコースのブログにレポートと写真を投稿します。レポートの内容は、何をしたか、誰と協力したか、自分のパフォーマンスをどのように評価したか、次のワークショップに向けて改善したい点について書きます。	60 minutes
試験等		
試験のフィードバックの方法		
Feedback will be given to participants directly after each session.		
フィードバックは各セッションの直後に参加者に与えられます。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
オフィスアワー		
水曜日：14:45-16:15 713L Video conferencing 可能。		
連絡先		
c. j. creighton@m.ndsu.ac.jp		

留意事項

A maximum of 8 students can join this project.

Access to Inujima is by ferry. Depending on the weather, the ferry service may be cancelled on short notice. Participants must be flexible.

There are costs such as transportation to Hoden port, the ferry, and the workshops. There is also a mandatory visit to the Seirenjo art museum. Every effort will be made to keep costs as low as possible but participants are expected to pay some portion of the cost. A description of the cost will be given in the first orientation.

The program is at the Inujima Life Garden which is outside. Students need to dress to work outside in a garden. Every effort will be made for safety; however, there is a possibility of accidents and insect bites.

Students on the program will interact with the aged local residents. Please understand that sometimes the local residents are available and sometimes they are not. Students on the program will also interact with foreign exchange students. The foreign students are volunteers and sometimes cannot attend workshops. Also, the foreign students have different levels of Japanese ability; at times the language will be Japanese but at times it will also be English. NDSU students will have the chance to use English communicatively.

授業には最大 8 人の学生が参加できます。

犬島へのアクセスは宝伝港からのフェリーです。天候によってはフェリーが急遽欠航となる場合があります。

宝伝港までの交通費、フェリー、ワークショップなどの費用がかかります。精錬所美術館への訪問も必須です。費用をできる限り低く抑えるようにしますが、費用の一部は参加者負担となります。費用については第 1 回オリエンテーションで説明します。

プログラムは屋外にある犬島くらしの植物園で行います。学生は屋外の庭で作業できる服装で参加してください。安全対策は取られますが、ケガや虫刺されに注意してください。

地域の高齢者と交流します。近隣住民が対応できる場合と対応できない場合があることをご了承ください。学生は外国人留学生との交流も行います。留学生はボランティアのため、ワークショップに参加できない場合もあります。また、留学生の日本語能力には個人差があります。言語は日本語と英語を使用する場合があります。NDSU の学生にとっては、英語を使ってコミュニケーションの機会があります。

自立力育成ゼミIII				単位数	2単位
授業コード	12940	科目ナンバリング	160Z0-2340-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	松平 勇二				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
グローバル教養を身に付けるための講義。講義とディスカッションを通じて多文化・異文化に関する理解を深め、互いに尊重しようとする態度を養うとともに、多様性の中で自分自身の文化や歴史を知ることによって自らのアイデンティティ確立の一助とする。次に、グローバルな思考力、課題発見・解決力、他者との協調・協働、社会の問題解決に主体的に取り組もうとする姿勢など、グローバル化する地球社会で活躍するに際して求められる素養・能力について考える。 講義では、学生が主体的にディスカッションの題材を準備し、話題提供からディスカッションの進行、総括までを担当する。講義にはゲスト講師を招き、専門の分野や地域に関する講義をおこなう。また、ゲスト講師は専門的な知見からディスカッションに向けた補助的な話題提供および技術的な指導をおこなう。 学生は主体的にディスカッションを準備し、司会進行し、総括することを通じて、主体的な学習意識を身につけることを目指す。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	国内外の様々な地域の宗教・文化・風習に関する具体例を説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	海外の様々な地域の文化・風習と日本の文化・風習との違いを説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	国内外のグローバル社会が現在抱える共通の課題を解決する方法を自ら探しだし、説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	グローバル社会で活躍するために身につけておくべき基本的な素養を獲得する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	講義への積極的な参加およびパフォーマンス（30%）			1／2／3／4	
2	各教員が最後に課す課題レポートまたは試験（70%）			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. グローバル教養とは何か					
事前学修	「グローバル」、「グローバル」の概念について予習する。				2時間
事後学修	グローバル、グローバルの概念について復習し、考えを整理する。				2時間
2. ディスカッション1：アフリカにおける植民地主義と反人種主義闘争					
事前学修	「アフリカ」、「植民地主義」について予習する。				2時間
事後学修	「アフリカ」「植民地主義」について復習し、自分の考えを整理しておくこと。				2時間
3. ディスカッション2：アフリカのポピュラー音楽と政治					
事前学修	「音楽と政治」について予習すること。				2時間
事後学修	「音楽と政治」について復習し、他の事例を参照して考えをまとめておくこと。				2時間
4. ディスカッション3：北東アジアにおける漫画とアニメーション（ゲスト講師による講義とファシリテーション）					
事前学修	北東アジアを舞台にした日本語の漫画を1冊、必ず読んでおいてください。また、その概要および選択した理由を口頭で伝えられるようにメモをとっておいてください。				2時間
事後学修	ディスカッションの内容について、啓発されたこと、疑問に思ったことを、ノートにメモしておいてください。自分ならば、どのように改善するのかも、あわせて記録しておいてください。				2時間
5. ディスカッション4：北東アジアにおける映画産業（ゲスト講師による講義とファシリテーション）					
事前学修	事前に台湾、中国、韓国、香港の字幕付き映画を2本見ておいてください。その概要および選択した理由を口頭で伝えられるようにメモをとっておきましょう。				2時間
事後学修	自分が発表した内容について、他の受講生の感想や質問を書き留め、自分なりの回答を残しておきましょう。また、他の受講生がディスカッションで取り上げた映画も1～2本見てください。そのうえで、授業中のディスカッションから得られる知見があれば、メモをとっておきましょう。				2時間

6. ディスカッション5：東南アジアにおけるイスラームとグローバリゼーション（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	イスラームとはどのような宗教であるのか、その実践や日常生活における戒律、禁忌、世界における教徒の分布など基礎的な知識を学習しておきましょう。	2時間
事後学修	東南アジアのイスラームの特徴を整理しておきましょう。書籍や新聞記事、インターネットの情報を利用して、非ムスリムがムスリムと交流するうえで、どのような点に配慮するべきか、また生じうる問題点を考えてみましょう。	2時間
7. ディスカッション6：日本におけるムスリムの受け入れについて（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	ディスカッションに向けて、各グループで発表資料を作成し、意見をまとめておきましょう。	2時間
事後学修	ディスカッションで出た意見や質問を振り返り、発表で不足していた点を書籍やインターネットなどで調べましょう。自分の意見をまとめて、ミニレポートを作成しましょう。	2時間
8. ディスカッション7：ブラジル、アルゼンチン、人種と社会（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	ラテンアメリカ諸国の人種構成について調べ、疑問点を書き出しておく。	2時間
事後学修	ディスカッション内容を振り返り、外国の人種と社会について興味を持った点をまとめておく。	2時間
9. ディスカッション8：南北アメリカへの日本人移民、海外日系人（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	日本人の海外移民の歴史、海外日系人の活動について調べ、疑問点を書き出しておく。	2時間
事後学修	ディスカッション内容を振り返り、移民の歴史や海外日系人の活動について自分なりに気が付いた点をまとめておく。	2時間
10. ディスカッション9：仏教、儒教、道教、神道、一神教と多神教（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	東アジア諸国が受容している仏教、儒教、道教、神道とはそれぞれどのような宗教であるのか、日本や中国、朝鮮半島などでの日常生活における実践について調べておきましょう。	2時間
事後学修	多神教が共存する東アジア諸国の文化の特徴を整理しましょう。書籍や新聞記事、インターネットの情報を利用して、これらの地域同志が交流するうえでどのような点に配慮するべきか、また生じうる問題点を考えてみましょう。	2時間
11. ディスカッション10：国際結婚、外国人労働者、外国人学校と日本における多文化共生（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	日本における国際結婚と外国人労働者、外国人学校の現状を調べておきましょう。	2時間
事後学修	ディスカッション内容を振り返り、日本における多文化共生について興味を持った点をまとめておく。	2時間
12. ディスカッション11：インドシナ諸国の社会と食（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	インドシナ諸国（ベトナム、ラオス、カンボジア）の社会に関する参考文献・資料などを読んで、「食」に関連する疑問・質問をまとめておくこと。	2時間
事後学修	授業中に作成した各自のノートを読み返し、疑問・質問に対する答えをまとめておくこと。	2時間
13. ディスカッション12：インドシナ諸国の社会と法（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	インドシナ諸国（ベトナム、ラオス、カンボジア）の社会に関する参考文献・資料などを読んで、「法」に関連する疑問・質問をまとめておくこと。	2時間
事後学修	授業中に作成した各自のノートを読み返し、疑問・質問に対する答えをまとめておくこと。	2時間
14. ディスカッション13：SDGs、ゴミ問題（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	日本と世界におけるゴミ問題の現状を調べておきましょう。	2時間
事後学修	ディスカッション内容を振り返り、ゴミに関して自分が新しく学んだこと、考えたことをまとめましょう。	2時間
15. ディスカッション14：言語政策、異文化理解、セカンド・アイデンティティ（ゲスト講師による講義とファシリテーション）		
事前学修	授業の前にタイトルにある3つのキーワードについて事前に調べておきましょう。	2時間
事後学修	ディスカッション内容を振り返り、ゴミに関して自分が新しく学んだこと、考えたことをまとめましょう。	2時間

試験等
成績評価の対象として課題レポートを予定しているが、最適な教育効果を判断して定期試験に変更することがありうる。
試験のフィードバックの方法
レポート全ての評価が終わった段階で、manaba通じて全体的な総評を伝える。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必要に応じて指示する。また、授業中に印刷物を配布する。
オフィスアワー
授業時に指示する。
連絡先
yuji_matsuhira@m.ndsu.ac.jp
留意事項

自立力育成ゼミⅣ				単位数	2単位
授業コード	12946	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小林 謙一				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
本授業は、「食えることは生きること」をキーワードとして、食材を例にとりながら、「食」を生物学的、社会的、心理的、文化的、歴史的、現代社会的な側面から、理解と思考を深める。また、「食」の問題と「情報」の問題の類似点を探り、その「解決点」を模索する。これらの考え方にに基づき、自ら課題を設定し、その課題に対して、情報を適切に収集・選択・整理し、プレゼンテーションやグループディスカッションを行う。その中で、集団の中で自らの意見を適切に表現できるようにする。					
アクティブラーニングの実施内容		ディベート			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	・「食」について、様々な観点から思考ができるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	・「食」やそれを取り巻く「社会」に対して、適切な「問題意識」をもち、それに基づく「課題」設定能力を身につけることができる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	・「課題」に取り組むための情報を適切に収集・選択したうえで、その情報を批判的に読み取る能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	・これらの「課題」をグループ内で発表し、議論・討論することで、集団の中で自らの意見を表現できるようになるとともに、多くの意見を集約し整理できる能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み度 10%			1／2／3／4	
2	課題 20%			1／2／3／4	
3	レポート 20%			1／2／3／4	
4	プレゼンテーション 50%			1／2／3／4	
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. オリエンテーション・・・本ゼミについての内容を理解できるようにする					
事前学修	本科目のシラバスを熟読し、この科目の内容や到達目標について理解をする。				120分程度
事後学修	本科目のオリエンテーションの内容を整理し、履修者の本科目で身に着けたいことなどについて記載したレポートを作成する。				120分程度
2. 夏野菜について・・・夏野菜（トマトなど）の言語学的、歴史的、そして食品学的な観点から考察する。					
事前学修	夏野菜（トマトなど）についての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。				120分程度
事後学修	夏野菜（トマトなど）についての講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。				120分程度
3. ジャガイモについて・・・ジャガイモの言語学的、歴史的、そして食品学的な観点から考察する。					
事前学修	ジャガイモについての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。				120分程度
事後学修	ジャガイモについての講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。				120分程度
4. ブドウについて・・・ブドウの言語学的、歴史的、そして食品学的な観点から考察する。					
事前学修	ブドウについての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。				120分程度
事後学修	ブドウについての講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。				120分程度
5. 疲れたあなたに栄養を・・・疲労と疲労を改善する薬品および機能性食品について論ずる					
事前学修	疲労と疲労を改善する薬品および機能性食品についての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。				120分程度
事後学修	疲労と疲労を改善する薬品および機能性食品についての講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。				120分程度

6. ロバストネスについて・・・ロバストネスから「栄養」や「健康」を考える		
事前学修	ロバストネスについての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	ロバストネスから見た「栄養」や「健康」についての講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
7. 肥満について文化的に考える・・・肥満について文化的・歴史的な側面から説明できるようにする		
事前学修	肥満と文化についての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	肥満について文化的・歴史的な側面から論じた講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
8. 肉食の思想について・・・肉食の思想について多面的に議論できるようになる		
事前学修	肉食の思想についての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	肉食について文化的・歴史的・思想的な側面から論じた講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
9. 現代の「食」とメタボロームシンドローム・・・現代の「食」の問題をメタボロームシンドロームという側面から説明できるようにする		
事前学修	現代の「食」とメタボロームシンドロームについての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	現代の「食」とメタボロームシンドロームについて論じた講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
10. 現代の「食」と「情報」・・・現代の「食」と「情報」との密接な関係性について説明できるようにする		
事前学修	現代の「食」と「情報」についての資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	現代の「食」と「情報」について論じた講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
11. 「食」とメタボと「情報」のメタボ・・・「食」と「情報」の概念的共通性について説明できるようになる		
事前学修	「食」と「情報」の概念的共通性について論じた資料を配布するので、それを予め熟読し、不明点を明確にしておく。	120分程度
事後学修	「食」と「情報」の概念的共通性について論じた講義とディスカッション内容を踏まえて、講義内容の要約を作成する。	120分程度
12. 学生による「食物」についての発表と質疑応答		
事前学修	「食物」について歴史的・社会的・食品学的に論じた書籍を1冊読んだ上で、その内容についての発表の準備をする。	120分程度
事後学修	「食物」についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。	120分程度
13. 学生による「食」についての発表と質疑応答		
事前学修	「食」について歴史的・社会的に論じた書籍を1冊読んだ上で、その内容についての発表の準備をする。	120分程度
事後学修	「食」についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。	120分程度
14. 学生による「健康」についての発表と質疑応答		
事前学修	「健康」について歴史的・社会的に論じた書籍を1冊読んだ上で、その内容についての発表の準備をする。	120分程度
事後学修	「健康」についての発表の際に出てきた課題などについて整理し、課題レポートとしてまとめて提出する。	120分程度
15. 総合討論・・・このゼミにおける内容を総括して、自身の振り返りができるようになる		

事前学修	このゼミにおける内容を総括するための議論ができる準備をしておく	120分程度
事後学修	この総合討論を踏まえて、本ゼミの感想を課題点をレポートにまとめる。	120分程度
試験等		
課題に対するプレゼンテーションとレポート		
試験のフィードバックの方法		
講義中やmanabaなどを通して、結果と講評を行う。		
必携書（教科書販売）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
必携書・参考書（教科書販売以外）		
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考		
授業で資料を配布する		
オフィスアワー		
月曜日4限		
連絡先		
k4kobaya@post.ndsu.ac.jp		
留意事項		
・毎回の課題があり、準備が必要である		

自立力育成ゼミⅤ [a]				単位数	2単位
授業コード	12951	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	Students can demonstrate research and academic writing skills			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Country/Issue Presentation 20%			1／2／3	
2	Position Paper 30%			1／2／3／5	
3	Formal Speech 20%			1／2／3／4／5	
4	Participation 30%			3／4	
5					
実務経験のある教員による授業科目		No			
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
		English			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
Week 1: Model UN intros and assignments					
事前学修	Prep: Research the UN and conference topic				1 hour
事後学修	HWK: Research assigned country and committee topic				1 hour
Week 2: Discussing Issues and Solutions					
事前学修	Prep: Prepare a list of key issues and potential solutions from your country' s POV				1 hour
事後学修	Review: Compare your list with your notes of other delegates' ideas				1 hour
Week 3: Country Reports (in trios)					
事前学修	Prepare a poster presentation introducing your country, the issue and your policy				1 hour
事後学修	Review other countries' policies				1 hour
Week 4: Discussing Issues and Solutions II					
事前学修	Prepare a list of questions and comments regarding other delegates' policies				1 hour
事後学修	Review and conduct follow up research on other delegates' ideas				1 hour
Week 5: Forming policies (PP drafts due)					
事前学修	Combine your ideas with those of delegates from the same regional bloc to form your own set of policies in your position paper				1 hour
事後学修	Turn in your position paper to your Mentor student Review feedback you received from regional bloc members and mentors regarding your policy				1 hour

Week 6: Policy speeches (PPs due)		
事前学修	Study the policy speech template along with written and spoken (video) examples	1 hour
事後学修	Begin writing your own policy speech	1 hour
Week 7: Amendment Process		
事前学修	Familiarize yourself with the Amendment process in the JUEMUN Handbook	1 hour
事後学修	Review the kinds of amendments you can make and the steps to do so Prepare a 1 minute policy speech based your position paper	1 hour
Week 8: Negotiating (Speeches Due)		
事前学修	Practice delivering your policy speech	1 hour
事後学修	Make note of the feedback you received on your policy speech content and delivery Review your notes on negotiation strategies	1 hour
Week 9: Critiquing Ideas		
事前学修	Reflect on your own ability to agree, disagree, comment and question others' ideas	1 hour
事後学修	Review your notes on effective strategies for critiquing others' policies	1 hour
Week 10: Simulation (PPs to JUEMUN)		
事前学修	Review Rules of Procedure, how and when to make motions, conference flow, etc.	1 hour
事後学修	Reflect on your performance during the simulation. What were you able to do? What did you have trouble with? Make adjustments	1 hour
Week 11: Post Simulation Adjustments		
事前学修	Note any areas where you are still having difficulties in order to get advice from other students and the professor	1 hour
事後学修	Get ready for conference	1 hour
Week 12: JUEMUN Conference		
事前学修	Prepare a portfolio with all your necessary documents, practice your policy speech, read position papers online	1 hour
事後学修	Write a reflection of your JUEMUN experience	1 hour
Week 13: Regroup and Reflect		
事前学修	Reflect on your conference experience and prepare to share it in class	1 hour
事後学修	Consider ways in which you might want to continue the theme of the JUEMUN conference on a local scale	1 hour
Week 14: Local Project Research		
事前学修	Prepare to pitch your ideas on how to use the remaining weeks of class on a local project	1 hour
事後学修	Begin researching local project	1 hour
Week 15: LP Working papers		
事前学修	Prepare ideas for the working papers	1 hour
事後学修	Edit and finalize working papers	1 hour

試験等
Week 16: Final Feedback
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This class is recommended only for students with the equivalent of TOEIC 600 or higher. For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions in English. In addition, students will be required to attend a Model United Nations Conference. Contact the professor if you have questions.

自立力育成ゼミⅤ [b]		単位数	2単位
授業コード	12952	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2
		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast		
時間割備考			
授業形態（主）	2 演習		
授業形態（副）	1 講義		
担当形態	単独		
研究分野（大学院）			
本授業の概要			
Students will learn about global citizenship and global issues via the Model United Nations while preparing for and during the Japan University English Model UN (JUEMUN) Conference. Students will learn to role-play delegates from different UN nations. They will learn about the roles of the UN in global affairs. They will research a global issue and how it affects the people of their assigned country, and the rest of the world. Delegates will gather in a UN committee to discuss the issue as assigned by JUEMUN and propose solutions in the form of draft resolutions. At the conference students will discuss these matters and negotiate with other delegates. Support will be given to the students to develop their negotiation and debating skills.			
アクティブラーニングの実施内容		発見学習	
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Students can demonstrate an understanding of the relevant global issue and the UN	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	Students can demonstrate in-depth knowledge of other countries	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Students can demonstrate critical and creative thinking skills	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	Students can demonstrate a development in their oral communication and negotiation skills through debate, discussion and collaboration	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5	Students can demonstrate research and academic writing skills	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	Country/Issue Presentation 20%	1／2／3	
2	Position Paper 30%	1／2／3／5	
3	Formal Speech 20%	1／2／3／4／5	
4	Participation 30%	3／4	
5			
実務経験のある教員による授業科目		No	
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業		English	
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
Intro + Case Study 1			
事前学修	Research as much as you can about the conference topic in advance	1 hour	
事後学修	Begin researching the practice topic and UN body	1 hour	
What is the UN? What are the current issues?			
事前学修	Research the UN and its organs	1 hour	
事後学修	Research the practice issue in depth	1 hour	
Understanding past resolutions			
事前学修	Bring any information on the practice topic you find, particularly past UN decisions	1 hour	
事後学修	Do a deep read of the past resolutions to better understand the topic	1 hour	
Poster Presentations + What is a PP?			
事前学修	Prepare a poster on your assigned country	1 hour	
事後学修	Review the position paper template. Begin writing your country' s position paper	1 hour	
Case 1 + Policy Building Strategies			
事前学修	Research your country' s stance on the issues. Prepare to share in class	1 hour	
事後学修	Note other countries' ideas and add them to your developing policy	1 hour	

Case 2 + Communication Strategies		
事前学修	Reflect on your own communication strengths and weaknesses	1 hour
事後学修	Review senior students' advice on MUN communication strategies	1 hour
Case 3 + Thinking Strategies		
事前学修	Reflect on your own ability to think critically and creatively regarding MUN issues	1 hour
事後学修	Reflect on the seniors' and professor's advice on MUN thinking strategies	1 hour
Case 4 (PPs due to Mentors)		
事前学修	Finish position paper before class	1 hour
事後学修	Begin preparing policy speech	1 hour
Strategies Review I		
事前学修	Reflect on any questions or concerns to be addressed in class	1 hour
事後学修	Note advice from professor and seniors	1 hour
Strategies Review II (PPs due to professor)		
事前学修	Make any edits necessary to position paper and turn in	1 hour
事後学修	Prepare policy speech for in-class conference	1 hour
In Class Conference: Formal + Regional Blocs (speeches)		
事前学修	Practice policy speech and review pps of other delegates	1 hour
事後学修	Note regional bloc members policies and add them to your own	1 hour
In Class Conference: WP drafting		
事前学修	Critique regional bloc policies and decide which ones to promote in committee	1 hour
事後学修	Continue drafting WP online	1 hour
In Class Conference: WP drafting		
事前学修	Finish adding clauses to WP	1 hour
事後学修	Critically read other committees' draft resolutions	1 hour
In Class Conference: Amending		
事前学修	Look for clauses to amend	1 hour
事後学修	Accept or reject amendments to your committee's draft resolution	1 hour
In Class Conference: Voting		
事前学修	Make final edits to draft resolutions	1 hour
事後学修	Write reflection	1 hour

試験等
Week 16: Final Reflection is due
試験のフィードバックの方法
Feedback will be given at the end of each assignment and on week 16
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
No textbook
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Materials will be provided by the instructor
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first lesson. Students may also arrange appointments by email.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
For each lesson students will be expected to do a vast amount of homework and be ready to discuss, debate, negotiate and collaborate in discussions in English. This class is recommended only for students with the equivalent of TOEIC 600 or higher.

自立力育成ゼミⅦI				単位数	2単位
授業コード	12961	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	岡田 紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
全国には13の国立ハンセン病療養所があり、岡山県は全国で唯一、2つの療養所をもつ自治体である。岡山県にある2つの療養所のうちのひとつである長島愛生園は、日本で最初に設置された国立療養所である。 本科目では、ハンセン病患者に対して90年にわたって続いた絶対隔離政策の歴史をたどりながら、今日もなお続くハンセン病回復者とその家族が経験してきたさまざまな「人生被害」の実際を学ぶ。そして、被害に対するかれらと支援者らによる「人間回復」の闘いと想いをみつめ、日本社会のあり方・仕組みを問うていく。また、近年頻繁に聞かれるようになった「人権」や人間の「尊厳」とはなんであるのかを考察していく。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	回復者とその家族が経験した偏見差別の実態を論理的かつ具体的に説明できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	ハンセン病問題が疾病の問題ではなく、ハンセン病回復者とその家族に対する偏見差別の問題であることを理解し、自分との関連性を見出せる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	回復者とその家族を「かわいそうな」「助けてあげるべき」存在としてではなく、抑圧や偏見差別のない社会をともに目指す存在として理解できる			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業の取り組み態度 20%			1／2／3	
2	リアクションペーパー 40%			1／2／3	
3	レポート 40%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. イントロダクション					
事前学修	履修する理由、意義を考える			2時間	
事後学修	イントロダクションを踏まえて考えた（考え直した）履修する理由、意義をまとめる			2時間	
2. ハンセン病という疾病と患者たち					
事前学修	「病い」と「疾病」の違いについて、書籍を探して調べ、まとめる			2時間	
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題がなぜ「疾病」というより「病い」の問題であるのかを考察し、まとめる			2時間	
3. 「国辱」論と強制隔離					
事前学修	ハンセン病を発症した人々あるいはその疑いをかけられた人々がなぜ強制隔離施設への入所を強いられたのかについて、書籍を探して調べ、まとめる			2時間	
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「国の（発展・安全の）ため」や「社会に貢献するため」といったスローガンを批判的に考察し、まとめる			2時間	
4. 海を越えた日本のハンセン病政策					
事前学修	日本の植民地下にあった国・地域におけるハンセン病政策について書籍を探して調べ、まとめる			2時間	
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読し、自分が考えたことをまとめる			2時間	
5. 立ち上がった入所者たち					
事前学修	「らい予防法」廃止後の1998年にはじまった国家賠償請求訴訟について、書籍を探して調べ、まとめる			2時間	
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「らい予防法」が廃止された後に星塚敬愛園と菊池恵楓園の入所者13人がなぜ国を相手取って訴訟を起こしたのかについて考察し、まとめる			2時間	

6. 人生被害からの人間回復：ハンセン病国賠訴訟原告たちの訴え		
事前学修	1998年の国賠訴訟での原告たちの訴えについて、書籍を探して調べ、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、原告たちの訴えについて自分が考えたことをまとめる	2時間
7. 旧植民地からの訴え		
事前学修	4回目の事後学習を確認するとともに、日本の旧植民地におけるハンセン病回復者の訴えについて、書籍を探して調べ、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、日本国内と旧植民地で異なる保障がなぜ生じるのか考察し、まとめる	2時間
8. 菊池事件から「人権」と「尊厳」を考える		
事前学修	「人権」と「尊厳」とは何か、書籍を探して考察し、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、「菊池事件」が起こり、再審が申し立てられてもなお実現していない背景を考察し、まとめる	2時間
9. 菊池事件再審にむけて（外部講師）		
事前学修	「菊池事件」の再審が申し立てられている背景について、書籍を探して調べ、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、菊池事件の再審開始がハンセン病問題においてどのような意味を持つのかについて考察し、まとめる	2時間
10. 立ち上がった家族たち		
事前学修	2016年にはじまったハンセン病回復者家族による国家賠償請求訴訟の背景にある、鳥取県の非入所者家族が国と県に対して起こした訴訟について調べ、まとめる	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、家族原告の訴えについて自分は何を問われているのか考察し、まとめる	2時間
11. ハンセン病家族訴訟原告たちの訴え（外部講師）		
事前学修	前回の講義・レジュメで紹介された書籍を読み、ゲストスピーカーの方への質問もしくは伝えたいことを用意する	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題が自分に何を問うているのか考察し、まとめる	2時間
12. ハンセン病問題とわたし：医療従事者からの問いかけ（学外講師）		
事前学修	前回の講義・レジュメで紹介された書籍を読み、ゲストスピーカーの方への質問もしくは伝えたいことを用意する	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題が自分に何を問うているのか考察し、まとめる	2時間
13. ハンセン病問題とわたし：市民からの問いかけ（学外講師）		
事前学修	前回の講義・レジュメで紹介された書籍を読み、ゲストスピーカーの方への質問もしくは伝えたいことを用意する	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題が自分に何を問うているのか考察し、まとめる	2時間
14. ハンセン病問題とわたし：法律家からの問いかけ（学外講師）		
事前学修	前回の講義・レジュメで紹介された書籍を読み、ゲストスピーカーの方への質問もしくは伝えたいことを用意する	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題が自分に何を問うているのか考察し、まとめる	2時間
15. ハンセン病問題とわたし：宗教者からの問いかけ（学外講師）		
事前学修	前回の講義・レジュメで紹介された書籍を読み、ゲストスピーカーの方への質問もしくは伝えたいことを用意する	2時間
事後学修	講義内容を整理しつつ、紹介された書籍を精読する。また、ハンセン病問題が自分に何を問うているのか考察し、まとめる	2時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> ・黒坂愛衣『ハンセン病家族たちの物語』世織書房、2019 ISBN 978-4-90-216380-3 ・山陽新聞社編『語り継ぐハンセン病：瀬戸内3園から』山陽新聞社、2015 ISBN 978-4-88-197750-7 ・田中等『ハンセン病の社会史：日本「近代」の解体のために』彩流社、2017 ISBN 978-4-77-912330-6 ・ハンセン病市民学会教育部会編『ハンセン病問題から学び、伝える：差別のない社会をつくる人権学習』清水書院、2022 ISBN 978-4-38-950141-9 ・原爆胎内被爆者全国連絡会『「広島・長崎」生まれた時から被爆者：胎内被爆者の想い、次世代に託すもの（2巻）」2024（Google Playにて無料公開） * その他は授業時またレジュメにおいて示す。 ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ 大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020
オフィスアワー
火曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者を上限30人とする。 ・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・本科目は、視聴覚教材（ドキュメンタリー、講演会映像等）を多用しながら進められる。 ・現代社会におけるマイノリティや偏見差別等の人権問題、多文化共生に関心があり、どう行動したらいいのかについて考えたい学生の履修を歓迎する（すでに履修を終えた人の再履修・聴講も歓迎）。 ・本科目は、高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではないため、受動的に授業に臨むのではなく、主体的に調べ、ともに考え、言語化する姿勢が求められる。 ・国内各地で活動するゲストスピーカー（外部講師）を数多く招くため、また履修者の理解度・関心度の状況などに応じて、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 * 岡山県内にある国立ハンセン病療養所である長島愛生園もしくは邑久光明園への見学を企画する（自由参加）。見学は土曜日に実施される可能性が高く、公共交通機関を利用した現地までの往復運賃と保険料（100円）を自己負担とする。参加者と非参加者では、課題について異なる対応をとる。

自立力育成ゼミVIII					単位数	2単位
授業コード	12971	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期	
担当者氏名	日下 紀子					
時間割備考						
授業形態（主）	2 演習					
授業形態（副）	1 講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						
本授業の概要						
社会の中で生きていくうえで、人は、自分の思いを他者に伝え、他者の思いを理解するというコミュニケーションを必要とします。より良いコミュニケーションと人間関係のためには、自分が何を感じ、何を思い、何を伝えたいのか、また相手は何を感じ、何を思い、何を伝えようとしているのか、自他の心について理解することが求められます。						
「大切なことは、目に見えないんだよ」と星の王子さまは言いました。心で探さないと見えないもの、心でしか見えないもの、心とは何かについて理解を深めるため、担当教員は、毎回、臨床心理学や精神分析学の視点からミニ講義を行います。その後、各自の予習資料を基に小グループディスカッションを行います。 授業のテーマにまつわる現代社会の心に関する資料や情報、文献を各自適切に選択して事前に調べ考えること、それをもとに小人数のグループで各自話題提供すること、そして自由にグループで討議し、各自の考えや意見を適切に表現することを授業を通して体験します。他者の意見に耳を傾けて聴き、何を考えて何を問うのかを考え判断し、さらに自分の意見や考えを深める取り組みを重ねていきます。						
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション				
到達目標					対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	心の働きに対する基礎的な理解力を身につけ、多面的に説明することができる。				知識・技能／思考・判断・表現力	
2	自他の心への関心を具体的に持ち、心を理解するための心的構えを身につける。				思考・判断・表現力／主体性	
3	現代社会を生きる「心」に関して、問題意識をもつことができる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	自分の意見を適切に表現、主張し、集団において他者と討論できる。				知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5						
成績評価の基準					対応する到達目標の番号	
1	授業への主体的な取り組み・リアクションシート 45%				1／2／3／4	
2	課題（発表）中間レポート（800字程度 3回） 30%				1／2／3	
3	期末課題レポート 25 %				1／2／3	
4						
5						
実務経験のある教員による授業科目			実務あり			
実務経験の授業への活用方法						
臨床心理士・公認心理師として心理臨床業務に携わっている経験より、現代社会における心に関する問題について臨床的にとりあげ、多面的、多角的、多層的な理解をすすめる。						
日本語以外の言語による授業						
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間			
1. オリエンテーション・「心」とは何か						
事前学修	本授業でどのような力を身につけたいのかを考え、どのテーマが最も関心があるのかを発表できるように準備しておくこと。 心とはなにか、現時点の自分の考えをまとめておくこと。 毎日のニュースや新聞記事などにも主体的、積極的に関心を持ち、各テーマに関する話題提供ができるように、文献にもあたるなどの準備をして授業に臨むこと					2 時間以上
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。					2 時間
2. 無意識の発見と心の成り立ち						
事前学修	Freud, S. はどのような人なのかを調べておくこと。無意識に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。					2 時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。					2時間
3. 心の発達と性格・パーソナリティについて						
事前学修	心の発達、性格、パーソナリティに関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。					2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。					2時間
4. セクシャリティ (sexuality) について						
事前学修	セクシャリティに関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。					2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。					2時間
5. ディスカッション①						
事前学修	1回目から4回目の授業のテーマから一つを選び、800字程度の小レポートにまとめ、話題提供し討論するための準備をすること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。					2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。					2時間

6. 夢の働き		
事前学修	夢に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
7. 不安、恐怖とは		
事前学修	不安、恐怖に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
8. 感情（怒り）のコントロール		
事前学修	感情（怒り）のコントロールに関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
9. 日常生活と心の健康（あるいは特別講師による講義を予定）		
事前学修	日常生活と心の健康に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
10. ディスカッション②		
事前学修	6回から9回のテーマの中から一つ選び、小レポートにまとめること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
11. 集団と対人関係における心理		
事前学修	集団と対人関係における心理に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
12. 人とのかかわり方		
事前学修	人とのかかわり方に関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
13. 自分の気持ちを伝える：アサーション		
事前学修	アサーションに関して自分が調べた内容を話題提供として発表できるよう準備すること。エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
14. ディスカッション③		
事前学修	11回～13回にわたるテーマから一つ選び、小レポートにまとめ、話題提供ができるように準備すること。エビデンスとなる文献・資料は何かを明らかにして発表できるようにしておくこと。	2時間
事後学修	授業後に学んだこと、印象に残ったキーワードをあげ、各自、主体的に言語化するように努めること。さらに問題意識をもって文献資料などを読み、理解を深めること。	2時間
15. 総合討論・まとめ		
事前学修	現代社会を生きるために必要な力について、これまでの授業全体を通して考えたことをまとめ、話題提供できるように準備すること。特に気になるトピックについても調べ、エビデンスとなる資料、文献名も合わせて発表すること。	2時間
事後学修	これまでのディスカッションを通して考えたことをまとめ、自立力とは何か、自分にとってどのような力が必要であるかをキーワードをあげて期末課題レポートを完成させる。本授業の到達目標全体を振り返り、どれだけ達成できているか自己評価を行う。	2時間

試験等
期末課題レポート
試験のフィードバックの方法
授業中に振り返りを行う。また、manabaを用いて、フィードバックを行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書等>
適宜授業中に紹介し、プリント等を授業中に配布する。
オフィスアワー
オフィスアワーは、火3限目。そのほかの希望については、教員に申し出て相談すること。
連絡先
noriko.kusaka@m.ndsu.ac.jp
留意事項
以下の注意事項を確認、了承と覚悟のうえで受講することが望ましい。
1. 主体的に授業に参加し、グループ討議において積極的に自分の意見を述べることが求められる。小グループの代表となり、意見をまとめ発表することがある。
2. manaba folio を利用する予定である。各自リマインダー登録をしておくこと。
3. レポートは、課題レポートを含めて4回（800字程度3回、2000字程度1回）を必ず提出すること。
4. 毎回の授業では事前学習をもとにグループディスカッションを行うので、必ず事前学習をして授業に臨むこと。エビデンスとなる資料・文献元を明らかにしておくこと。
5. 外部講師による特別講義「自分たちに求められる被害者支援とは～誰かの笑顔に繋がる私の勇気～」を企画予定であるが未定である。開催される場合にはシラバスの順が変更になる可能性あり。

ボランティア実践III				単位数	2単位
授業コード	18100	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	濱崎 絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意を説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%			1／3	
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%			1／2／3	
3	期末レポート 30%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 オリエンテーション					
事前学修	ボランティアの概念や社会的意義などについて書籍やWEB等で調べる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の動機や目的をまとめる。			120分	
2 ボランティア基礎講座（特別講義）					
事前学修	ボランティア活動の種類や活動の注意点などについて書籍やWEB等で調べる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の概念や社会的意義など基本的な事柄について学んだ内容をまとめる。			120分	
3 ボランティア活動の紹介（特別講義）					
事前学修	さまざまなボランティア活動について情報収集を行う。			60分	
事後学修	ボランティア活動の動機や目的を考えボランティア活動計画に記入する。			120分	
4 ボランティア活動の紹介（特別講義）					
事前学修	さまざまなボランティア活動について情報収集を行う。			60分	
事後学修	関心のあるボランティア活動を検討しボランティア活動計画に記入する。			120分	
5 ボランティア活動の計画と調整					
事前学修	活動するボランティアを検討しボランティア活動計画を完成させる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の調整を行う。			120分	

6 ボランティア活動の計画と調整		
事前学修	活動するボランティアを検討しボランティア活動計画を完成させる。	60分
事後学修	ボランティア活動の調整を行う。	120分
7 ボランティア活動		
事前学修	活動の目的や注意点などを確認し、主体的に取り組むための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
8 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
9 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
10 進捗の確認と中間報告		
事前学修	活動の調整や実施状況を報告できるよう、内容を整理して記録しておく。	60分
事後学修	他者の進捗を参考にしながら活動を調整・継続する。	120分
11 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
12 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
13 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
14 活動の振り返りと学びの共有		
事前学修	活動を振り返り、気づきや学びを整理しておく。	60分
事後学修	学びの共有を通じて自身の活動をより深める。	120分
15 活動の振り返りと学びの共有		
事前学修	活動報告の準備を行う。	60分
事後学修	自分や他者の活動報告をもとに、ボランティア活動への理解を深めてまとめる。	120分

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉 必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
ボランティア活動の紹介等をふまえて5日間程度の活動を行う。 関心のあるボランティア活動を選択・調整できる主体性が求められる。 独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること。

ボランティア実践B				単位数	2単位
授業コード	18102	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	濱崎 絵梨				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
ボランティア活動について、概念、社会的意義、活動上の注意など、基本的な事柄を学びます。福祉、教育、環境を中心としたボランティア活動の実践者やコーディネーターから多様なボランティア活動について学びます。そのうえで、自らが関心のあるボランティア活動に参加します。実践を通じてボランティア活動の意義を体験的に学び実践力を身につけます。体験からの学びを他のメンバーと共有するとともに、地域社会の課題に対する理解を深め視野を広げます。					
アクティブラーニングの実施内容		体験学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	ボランティア活動の概念、社会的意義、活動上の注意を説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	地域社会において主体的にボランティア活動を実践することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	体験からの学びを他のメンバーと共有し、地域社会とボランティア活動について多角的に考察して記述することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み 20%			1／3	
2	ボランティア活動への積極的参加と協働 50%			1／2／3	
3	期末レポート 30%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1 オリエンテーション					
事前学修	ボランティアの概念や社会的意義などについて書籍やWEB等で調べる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の動機や目的をまとめる。			120分	
2 ボランティア基礎講座（特別講義）					
事前学修	ボランティア活動の種類や活動の注意点などについて書籍やWEB等で調べる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の概念や社会的意義など基本的な事柄について学んだ内容をまとめる。			120分	
3 ボランティア活動の紹介（特別講義）					
事前学修	さまざまなボランティア活動について情報収集を行う。			60分	
事後学修	ボランティア活動の動機や目的を考えボランティア活動計画に記入する。			120分	
4 ボランティア活動の紹介（特別講義）					
事前学修	さまざまなボランティア活動について情報収集を行う。			60分	
事後学修	関心のあるボランティア活動を検討しボランティア活動計画に記入する。			120分	
5 ボランティア活動の計画と調整					
事前学修	活動するボランティアを検討しボランティア活動計画を完成させる。			60分	
事後学修	ボランティア活動の調整を行う。			120分	

6 ボランティア活動の計画と調整		
事前学修	活動するボランティアを検討しボランティア活動計画を完成させる。	60分
事後学修	ボランティア活動の調整を行う。	120分
7 ボランティア活動		
事前学修	活動の目的や注意点などを確認し、主体的に取り組むための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
8 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
9 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
10 進捗の確認と中間報告		
事前学修	活動の調整や実施状況を報告できるよう、内容を整理して記録しておく。	60分
事後学修	他者の進捗を参考にしながら活動を調整・継続する。	120分
11 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
12 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
13 ボランティア活動		
事前学修	前回の活動を振り返り、より良い活動を行うための準備を行う。	60分
事後学修	ボランティア活動記録を作成して報告する。	120分
14 活動の振り返りと学びの共有		
事前学修	活動を振り返り、気づきや学びを整理しておく。	60分
事後学修	学びの共有を通じて自身の活動をより深める。	120分
15 活動の振り返りと学びの共有		
事前学修	活動報告の準備を行う。	60分
事後学修	自分や他者の活動報告をもとに、ボランティア活動への理解を深めてまとめる。	120分

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
manaba folioからレポートをふまえた全体統括を掲載する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉
必要に応じて資料を配布する。
オフィスアワー
質問等は随時、電子メールで受け付ける。 オフィスアワーは授業中に伝える。
連絡先
hamasaki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
ボランティア活動の紹介等をふまえて5日間程度の活動を行う。 関心のあるボランティア活動を選択・調整できる主体性が求められる。 独自のボランティア活動に参加しても良いが、その場合は必ず担当教員に相談すること。

「いのち」と「くらし」の倫理				単位数	2単位
授業コード	18500	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	崎川 修				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
私たちの「いのち/くらし」の成り立ちと、そこに横たわる諸問題を「ケア」の視点から見つめ、考える。医療や福祉、教育などの「専門的かかわり」においてのみならず、私たちの日常的な生活の中にある「ケア」の可能性について考えながら、参加者一人一人が自分自身それを自分自身の生き方に取り入れていく道を探求する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	現代社会の諸問題を自己の生と関係づけて理解し、その解決法を具体的に提示できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	他者の言葉に耳を傾けつつ、対話を通じて自分の主張を発見し、意見として表現することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	リアクションペーパー 30%			1／2	
2	グループワークへの参加 30%			1／2	
3	期末レポート 40%			1／2	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 導入					
事前学修	シラバスから講義の概要や目的を把握し、予定されたテーマについて自分の関心や疑問点などをまとめておく。			2時間	
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。			2時間	
2. ケアという視点					
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。			2時間	
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。			2時間	
3. 「LIFE=いのちとくらし」の問題圏					
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。			2時間	
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。			2時間	
4. 「ケアの地図」をつくる(グループディスカッション)					
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。			2時間	
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。			2時間	
5. 発表1					
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。発表者はスライドでの発表を準備する。			2時間	
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。			2時間	

6. 「育つ」:こどもを考える		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
7. 「あそび」を考える(グループディスカッション)		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
8. 発表2		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。発表者はスライドでの発表を準備する。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
9. 「働く」:おとなと生活者の視点		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
10. 「社会のかたち」を考える(グループディスカッション)		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
11. 発表3		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。発表者はスライドでの発表を準備する。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
12. 「生きる」:いのちを見つめる		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
13. 「リビングウィル」を考える(グループディスカッション)		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
14. 発表4		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。発表者はスライドでの発表を準備する。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間
15. まとめ:他者と共に歩む生へ		
事前学修	授業計画に従い、テーマの内容についてあらかじめ調べ、知識や疑問点を整理しておく。	2時間
事後学修	ノートを整理してリアクションを作成する。また講義内容に関連した資料等を収集し、理解を深める。	2時間

試験等
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考書〉 『ケアの倫理 フェミニズムの政治思想』岡野八代，岩波新書，2024年 その他、随時講義内にて紹介する。必要に応じてプリント資料を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問や相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・定員60名。 ・本科目は講義だけではなく、ディスカッション、グループ発表も取り入れてすすめられる。 詳しいプログラムは受講者数に応じ、相談して決定する。 ・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、単位を与えない場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、単位を与えないので注意すること。

ディスカッションから社会を考える				単位数	2単位
授業コード	18600	科目ナンバリング	160Z0-1234-o2	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	濱西 栄司				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	3 実験・実習・実技				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					
本授業の概要					
【サブタイトル：国連SDGs入門―「行動の10年」のためのサステナビリティの学び】 本科目は、国連大学SDG大学連携プラットフォーム（https://ias.unu.edu/jp/sdg-up）によって開発された1・2年生向けの一般教養科目である。SDGs実践に先駆的に取り組む全国の大学が協力して授業を展開し、サステナビリティに関する広い知識を身につけるとともに、SDGsの社会的、経済的、環境的、ガバナンス的側面の有機的関連性を見る視座や自主的かつ協調的に考える力を養う。SDGsの歴史的背景と日本の現状を理解したうえで、SDGsがももめる変化と行動について事例から学びつつ議論することを通して、サステナビリティについて自分事として捉えることができる姿勢を涵養する。 ※本科目は、本学が創設メンバー大学として参加する「国連大学SDG大学連携プラットフォーム」（SDG-UP：32大学）の「SDGsカリキュラム分科会」（幹事は清心・ICU・関学）において2023年度に構築された連携科目です。1・2年生の人向けにつくられていますので、どの学部・学科、学年の人でも安心して受講できます。 ・全15回の授業は、国連大学による導入部分（第1・2回）に続いて、第3～14回は【開発・国際】【環境・持続】【経済・投資】【外国・共生】【ジェンダー・人権】【参画・変革】【データサイエンス】【防災】をテーマとする各2回（一部は1回）の授業から構成されます―どちらかといえば2回のうち1回目は変化をもたらした事例紹介、2回目は理論的な内容から成ります。 ・2025年度は北海道大学、関西学院大学、奈良教育大学、北九州市立大学などでも同じ内容で授業がなされます（いずれもSDG-UP参加大学）。 ・事前にグーグルクラスルーム上に掲載された授業動画等を視聴した上で、授業では小グループに分かれて意見交換をおこないます。楽しく学べますし、他学科の人とも交流ができる授業です。 ・全15回授業のファシリテートおよび第11回の講義は、濱西（地域連携・SDGs推進センター長／SDG-UP担当／現代社会学科）が行います。 ・国連大学が、学部向け授業、日本語授業に関わるのは初めてのことで、国内の大学がこれほど連携して構築する授業も日本初です。 ・SDGsの「実践」、とくに社会的企業、ソーシャルビジネスに関心のある方は、濱西担当の「現代社会学特講Ⅲ」（他学科開放科目）も受講してみてください。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	SDGsの歴史的背景と各ゴールの理論的背景を理解し、説明できる。			知識・技能	
2	SDGsの進捗状況、及び日本と他国の多様な主体の取り組みについて評価体制や方法を理解し、説明できる。			知識・技能	
3	SDGsの求める変化や行動について先進的取り組み事例を通して、その駆動要因を考察できる。			思考・判断・表現力	
4	地球と社会のサステナビリティについて自分事として内化し、その行動指針を表現することができる。			主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	討論等のアクティブラーニングへの参加：20%			3／4	
2	アサインメント（事前の動画視聴など、授業への取り組み）：30%			1／2	
3	全体を振り返るエッセイ／ファイナル・レポート：50%			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 授業概要・イントロダクション					
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと				1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること				1時間程度
2. 共通の前提（UNU-IAS）					
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと				1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること				1時間程度
【開発・国際】					
3. SDGsを考える-アフリカ地域と食料問題を中心に-（東京外国語大学） a. アフリカからSDGsを考える b. SDGs目標2と食料への権利～アフリカの事例を中心に					
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと				1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること				1時間程度
4. SDGsをめぐるグローバル・ガバナンス（国際基督教大学） a. 変わる多国間外交 【吉川元偉元国連大使】 b. SDGsとコーポレート・ガバナンス c. 持続可能な開発の第4の柱論争とガバナンス					
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと				1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること				1時間程度

【環境・持続】 5. SDGs13と14に関連する学術活動としての気候科学と海洋科学（北海道大学） a. 気候モデルってなに？ b. 北極域の海洋科学		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
6. SDGsの潮流とカーボンニュートラルの実践（東京都市大学） a. サステナビリティ概念の歴史の変遷 b. SDGsの本質 c. 気候変動による影響はいくらか d. サーキュラーエコノミーで実現する脱炭素社会		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
【経済・投資】 7. SDGs と ESG投資（上智大学） a. SDGs と ESG 投資 b. 年金資金と社会課題解決 c. 気候変動問題等と機関投資家 d. 国連責任投資原則(PRI)とSDGs e. インパクト投資と社会的インパクトの評価 f. インベストメント・チェーンにおける各経済主体の効果的な協働		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
8. ヒトとヒト、ヒトとモノ、モノとモノのつながり（愛媛大学） a. SDGsのサプライチェーンとバリューチェーン b. LCAによる可視化のためのグループワーク c. LCAの振り返り		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
【外国・共生】 9. 日本における移民・外国人の受入れとSDGs（関西学院大学） a. 日本に住む外国人の特徴と「ビジネスと人権」の新潮流 b. 外国人労働者の子弟の教育と医療の改善に向けて		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
【ジェンダー・人権】 10. 行動と変化から学ぶSDG5実践編（ノートルダム清心女子大学） a. 身近な問題から b. 各地の男女共同参画基本計画から		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
【参画・変革】 11. 歴史文化遺産を通したESD（奈良教育大学） a. ESDの概要 b. 歴史文化遺産を通したESDの実践		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
12. 持続可能な未来を創る～わたしたちのシティズンシップ（東海大学） a. 持続可能な未来への変革を導くのは誰か～現代社会における市民とその力 b. 市民による社会参画の意義と方法		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
13. 国連統計データベースの扱い方（北九州市立大学） a. 国連統計データベースの役割（中武繁寿教授・日高京子教授・ゴーチュイリン特任准教授ほか） URL b. UNdataの扱い方（中武繁寿教授・日高京子教授・ゴーチュイリン特任准教授ほか）		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
14. ESD・SDGsの観点からの防災・減災教育（奈良教育大学） a. 理論①地殻変動編・②気候変動編（及川幸彦教授） b. 防災実践①海外編・②国内編（及川幸彦教授）		
事前学修	事前に出される課題（動画視聴等）にとりくむこと	1-3時間程度
事後学修	授業での学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度
15. まとめ		
事前学修	これまでの学びを振り返ること	1-3時間程度
事後学修	15回全体の学び・感想についてGoogleClassroom上に記入すること	1時間程度

